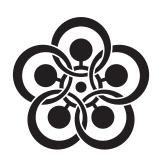
# 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科年報

2021年度



2022年11月

2022年4月より、東京医科歯科大学は、世界最高水準の教育研究活動の著しい向上とイノベーション創出を図ることを目指した「指定国立大学法人」の指定を受けました。全国に86校ある国立大学の中で、指定された10校に仲間入りしました。

保健衛生学研究科においても、世界最高水準の研究者育成が第一の使命となるととも に、教員一同も世界最高水準の教育研究者としての活動展開が求められます。

保健衛生学研究科は看護先進科学専攻として、東京医科歯科大学病院看護部をはじめと した看護実践者と強い連携・協働を図るとともに、本学医学部・歯学部との横のつながりも 強化しながら、看護学の発展と社会への寄与を目指していきます。

本研究科の特徴である5年一貫課程では、5年間の継続的な学修による学位(修士号と博士号)の取得、最初の2年間での修士号取得、他大学での修士号取得者に対しては2020年度から開始した編入学制度(博士後期課程からの進学に相当)による後半3年間の在籍期間を経た博士号取得、といった多様で柔軟な対応が可能な課程となっています。

コロナ禍に加えて超高齢人口減少社会や科学技術が大きく進む変革の時代の中、1人1人の個別性を大切にし、その人の生活と命を支える学問である看護学に期待される役割はより大きくなると確信しております。

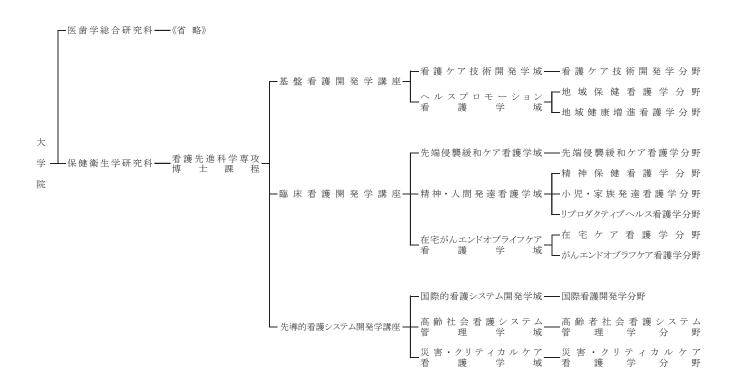
今後も東京医科歯科大学保健衛生学研究科の教員・大学院生を含む各分野の構成員は、 世界における看護界のリーダー的存在となることを目指し、本年報に記す活動実績が一層 豊かになるよう、日々研鑽して参ります。

> 2022 年 11 月吉日 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科長 福井小紀子

## 目 次

Ι.	機構図	2		
${\mathbb I}$ .	各教育研究分野における教育・研究			
	看護先進科学専攻			
	基盤看護開発学講座			
	看護ケア技術開発学域			
	看護ケア技術開発学分野	4		
	ヘルスプロモーション看護学域			
	地域保健看護学分野	8		
	地域健康増進看護学分野	12		
	臨床看護開発学講座			
	先端侵襲緩和ケア看護学域			
	先端侵襲緩和ケア看護学分野	14		
	精神・人間発達看護学域			
	精神保健看護学分野	17		
	小児・家族発達看護学分野	21		
	リプロダクティブヘルス看護学分野	25		
	在宅がんエンドオブライフケア看護学域			
	在宅ケア看護学分野	28		
	がんエンドオブライフケア看護学分野	33		
	先導的看護システム開発学講座			
	国際的看護システム開発学域			
	国際看護開発学分野	35		
	高齢社会看護システム管理発学域			
	高齢社会看護システム管理学分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39		
	災害・クリティカルケア看護学域			
	災害・クリティカルケア看護学分野	44		
$\mathbb{I}$ .	2021年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	49		
IV.	2021年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文題目一覧表	52		
V.	委員会委員名簿	54		
VI.	就職状況一覧表 (2022年3月卒業・修了者)	56		

## I. 機 構 図



Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

## 看護ケア技術開発学

## Innovation in Fundamental and Scientific Nursing Care

 教
 授
 柏木聖代

 講
 師
 森岡典子

 助
 教
 大河原知嘉子

大学院生 5年一貫制後期課程 樺島稔 柴野裕子 古川彩子 勝又彩瑛 鈴木のどか

#### (1) 分野概要

ヘルスサービスリサーチ(Health Services Research)は、社会的要因、報酬体系、組織の構造(structure)やプロセス(process)、アウトカム(outcome)、医療の質、サービス利用、コスト、アクセシビリティ等を科学的に探究する学際的な研究分野です。

当分野は、エビデンスに基づく政策立案を推進するために、看護の立場からヘルスサービスリサーチに取り組み、その研究成果を世界に発信することを通じて、質の高い看護サービスが必要な人に提供される社会の実現の一助となることを目指しています。

#### (2) 研究活動

1) ナーシング・ヘルスサービスリサーチ

国や自治体レベルのデータ分析等を通じ、病院・施設・在宅等における主に看護サービスの質(インプット・プロセス・アウトカム)に関するヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。

- 2) リアルワールドデータを活用した看護サービスの質. 政策評価研究
- レセプトや電子カルテなどのリアルワールドデータを用いた学際的アプローチにより、看護サービスの質.政策評価にかかる研究に取り組んでいる。
- 3) 保健医療人材の需給推計および地理的分布に関する研究 看護職等の保健医療人材の需給推計,地域偏在や人材供給量の検証に取り組んでいる。
- 4) 看護実践の可視化·知識ベースの開発 優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論

の検討を行っている。

#### (3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院では、主にナーシング・ヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究の進捗に対して、分野の全院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。

#### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

学部教育では基礎看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、 態度、技能形成の基盤づくりを行っている。

1年次には専門科目の「基礎看護学 I 」「基礎看護学実習 I 」を開講した。「基礎看護学 I 」は看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基盤看護学実習 I は本学病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指している。

2年次は、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱを開講している。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指している。また、基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」、「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いている。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の 仕方について指導した。学内での発表にとどまらす、学会発表、学術誌への論文投稿できるよう指導を行なって いる。

#### 2) 大学院教育

大学院教育では看護ケア技術開発学特論 I · II 、および看護ケア技術開発学演習 I 、看護政策学特論、特別研究 I · II を担当している。

ヘルスサービスリサーチに関する手法を学び、国内外の政策立案に資する研究成果を看護の立場から発信できるよう、指導を行っている。自身の研究テーマに加え、分野で取り組んでいる大規模研究プロジェクトへの参画等を通じ、専門的な知識や技術のみならず、研究者としての実践経験を積み重ね、国内外で活躍できる人材の育成を目指している。

#### (5) 臨床活動および学外活動

#### 研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また国内外の他大学との共同研究や地域の組織や機関等との共同研究や研究支援を行っている。

#### (6) 研究業績

#### [原著]

1. Furukawa Ayako, Kashiwagi Kimikazu. The relationship between leadership behaviours of ward nurse managers and teamwork competency of nursing staff: A cross-sectional study in Japanese hospitals JOURNAL OF NURSING MANAGEMENT. 2021.10; 29(7); 2056-2064

- 2. Noriko Morioka, Masayo Kashiwagi. Infection prevention and control practice among home-care nursing agencies in Japan: Secondary analysis of a nationwide cross-sectional survey Geriatrics & Gerontology International. 2021.09: 1-6
- 3. Ogata Yasuko, Sato Kana, Kodama Yoshimi, Morioka Noriko, Taketomi Kikuko, Yonekura Yuki, Katsuyama Kimiko, Tanaka Sachiko, Nagano Midori, Ito Yoichi M., Kanda Katsuya. Work environment for hospital nurses in Japan: The relationships between nurses' perceptions of their work environment and nursing outcomes NURSING OPEN. 2021.09; 8(5); 2470-2487
- 4. Masayo Kashiwagi, Noriko Morioka. Characteristics of home-visit nursing agencies that closed after the 2012 fee revision for home-visit nursing services: A nationwide panel data analysis in Japan International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021.09; 18; 9820
- 5. Yo Mabuch, Chikako Okawara, Simón Méndez-Ferrer and Chihiro Akazawa. Cellular Heterogeneity of Mesenchymal Stem/Stromal Cells in the Bone Marrow Frontiers in Cell and Developmental Biology. 2021.07; 9(689366);
- Yasuko Ogata, Keiko Fujinami, Sakiko Ito, Masayo Kashiwagi, Nobuko Lapreziosa, Yuki Yonekura. Developing the Nursing Practice Environment Scale for Home Health Care: A Trial Study in Japan Nursing Open. 2021.07; 1-13
- 7. Noriko Morioka, Mutsuko Moriwaki, Jun Tomio, Kiyohide Fushimi, Yasuko Ogata. Dementia and patient outcomes after hip surgery in older patients: A retrospective observational study using nationwide administrative data in Japan. PLoS One. 2021.04; 16(4); e0249364
- 8. Morioka Noriko, Kashiwagi Masayo. Adverse Events in Home-Care Nursing Agencies and Related Factors: A Nationwide Survey in Japan INTERNATIONAL JOURNAL OF ENVIRONMENTAL RESEARCH AND PUBLIC HEALTH. 2021.03; 18(5);
- 9. Itoh Sakiko, Mori Takahiro, Jeon Boyoung, Morioka Noriko, Ito Tomoko, Jin Xueying, Ogata Yasuko, Tamiya Nanako. Comparison of progression of care-need levels among long-term care recipients with and without advanced care management in a rural municipality of Japan: A population-based observational study INTERNATIONAL JOURNAL OF NURSING STUDIES. 2021.01; 113;
- 1. 寺嶋美帆, 柏木聖代. 管理者が捉える訪問看護に関連した有害事象—フォーカス・グループインタビューデータの質的分析— 日本在宅看護学会誌. 2021.08; 10(1); 66-74
- 2. 鈴木 のどか, 柏木 聖代. 介護保険事業者における事故発生時の自治体への報告基準の現状 「介護保険事業者における事故発生時の報告取扱要領」の分析から 日本健康医学会雑誌. 2021.07; 30(2); 223-230
- 3. 杉本健太郎, 柏木聖代. 医療配置のないサービス付き高齢者向け住宅の介護職員が捉える入居者 · 家族が満足する看取りに寄与する要因 日本在宅看護学会誌. 2021.02; 9(2); 20-29

#### [講演·口頭発表等]

- 1. Ayako Furukawa, Masayo Kashiwagi, Noriko Morioka. Factors related to older nurses' decisions to stay or leave the workforce: An overview of review. ICN Congress 2021 2021.11.02 The virtual meeting
- 1. 森岡典子, 柏木聖代. COVID-19 流行下における訪問介護事業所の感染予防対策の実態—全国調査—. 第 80 回日本公衆衛生学会学術集会 2021.12.23 ハイブリット開催(東京)
- 2. 柏木聖代, 森岡典子. 訪問看護従事者に関する事故の発生状況と発生件数に関連する要因—全国調査データ の二次解析—. 第80回日本公衆衛生学会学術集会 2021.12.23 ハイブリット開催(東京)
- 3. 森岡典子. RWD を用いた政策効果検証一認知症ケア加算の効果評価に関する研究一. 第 25 回日本看護管理 学会学術集会 2021.08.28 横浜

- 1. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員(大河原知嘉子), 東京医科歯科大学, 2014 年 04 月 01 日 現在
- 2. 東京都訪問看護ステーション協会顧問(柏木 聖代), 2015年07月01日-現在

#### 基盤看護開発学講座 看護ケア技術開発学

- 3. 日本在宅看護学会 理事(柏木 聖代), 2015年09月-現在
- 4. 日本医療・病院管理学会 事業委員会(柏木 聖代), 2016年05月-現在
- 5. なるほどテキストマイニング (大河原知嘉子), 医学書院, 看護研究, 2016年12月15日 現在
- 6. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問(柏木 聖代), 2017年08月-現在
- 7. 日本混合研究法学会 編集委員(大河原知嘉子), 2017年12月01日-現在
- 8. 日本混合研究法学会 事務局 (大河原知嘉子), 2018年04月01日-現在
- 9. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長(柏木 聖代), 2018年06月-現在
- 10. 日本混合研究法学会 理事 (大河原知嘉子), 2019年04月01日-現在
- 11. 第80回日本公衆衛生学会学術集会一般演題査読委員, 2021年08月01日-現在
- 12. 日本看護科学会誌和文査読委員, 2021年10月01日 現在
- 13. 第 36 回日本看護科学学会学術集会 企画委員 (西村礼子)

## 地域保健看護学

## Community Health Nursing

小野寺 春香 技術補佐員 河邊 優

#### (1) 分野概要

地域保健看護学分野では、公衆衛生分野を専門として、地域の健康課題解決や地域保健活動への貢献を目指し、教育・研究を行っている。

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を行い、保健師課程の教育では、探求心とリーダーシップを備えた、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。また、大学院教育では、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。

研究は、公衆衛生分野全般を範囲とし、特に循環器疾患とその危険因子について、関連の解明と予防方法の開発に力を入れ、多くのエビデンス創出に貢献している。

#### (2) 研究活動

公衆衛生を専門とし、地域の健康課題解決や地域保健活動へ貢献できるエビデンスの創出を目指した研究を行っている。主に循環器疾患と危険因子との関連の解明と予防方法の開発をテーマに、疫学研究、介入研究、保健統計という疫学手法を用いて研究を行っている。

#### 主な研究テーマ

- 1. 循環器疾患と危険因子との関連の解明(疫学研究、保健統計)
- 2. 保健指導、健康教育の開発と実証研究
- 3. 循環器疾患、メンタルヘルス、産業保健、母子保健、がんの予防活動、社会実装研究
- 4. 公衆衛生活動の開発と評価
- 5. 地域健康づくりに関する研究
- 6. 国際的に活躍できる地域保健看護専門職者の育成方法に関する研究
- 7. 労働者の親介護に関する研究

2021年度の具体的な研究活動内容は、

- · 次期健康日本 21 策定評価に向けて、循環器疾患危険因子の重積と健康寿命に関する疫学研究を行い国際疫学会で発表した。
- ·子育て中の被扶養者に対する生活習慣病予防健診の受診啓発に関する社会実装研究として、品川区の「20 歳からの健康診査」の啓発活動を開始した。主には、ナッジを用いた健診啓発パンフレットを作成し区内の医療福祉

機関、児童館、子育て支援活動団体などに配布し、行政や子育て支援団体と協働して子育て女性に対する受診啓発を開始している。

- ·厚生労働省予防・健康づくりに関する大規模実証事業に参画し、循環器疾患予防の食行動変容をめざした尿ナトカリ比測定と保健指導、食環境整備に関する介入手法を開発し、2021年度より全国自治体と職域で実証研究を実施している。
- ・社会実装科学の普及に向けて、国立がん研究センターと共同で、米国 NCI が、がん実践家や諸学者向けにまとめた『ひと目でわかる実装科学:がん対策実践家のためのガイド』の翻訳作業を行った。
- · 行政保健師による精神障害者の就労支援をテーマに、精神病院保健師の論文研究指導や、重症心身障害者と訪問 看護師の関わりをテーマに、在宅 CNS の論文研究指導を行った。
- ・日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会 生活習慣病・公衆栄養グループと日本公衆衛生協会と共に、全国保健所における新型コロナウィルス蔓延による都道府県民健康・栄養調査への影響について調査し、その結果を速やかに公開して公衆衛生施策に還元できるようにするとともに、論文化を進めている。

学部学生は「新型コロナウイルス感染症流行下でのオンラインを用いたメンタルヘルス相談業務の実際」(2021年度 太田彩香)、「看護師が捉えた、思春期1型糖尿病患者の自立への移行において患者会が果たす役割」(2021年度 小林こころ)、「精神障害の親を持つ子どもへの保健師のかかわり」(2021年度 服部彩音)、「保健師がとらえる発達障害児の家族の就学前後の困りごとと保健師による支援の実際」(2021年度 米澤知優)というテーマで卒業研究をまとめた。

大学院生は「認知機能の低下予防に着目した集団教育の効果」(2020 年度 金屋佑子)、「発達障害児に対する言葉による行動抑制に関する研究」(2020-2021 年度 異夕起)、「地域で働く保健師の対人援助における感情に関する研究」(2020-2021 年度 本田順子)、「労働者を対象とした運動習慣とロコモティブシンドローム予防のための運動プログラムの検証」(2020-2021 年度 塩満智子)、「慢性疾患を有する成人・高齢者とその家族に対する訪問看護師による ACP の認識と実践内容・方法」(2020-2021 年度 木村光佑)、「パートナーからのソーシャル・サポートに着目した妊娠期からの産後うつ予防:介入研究の文献検討」(2021 年度 小野寺春香)というテーマについて研究を行っている。

#### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と 実習を相互に連動させ、地域保健看護活動の理論・実践・研究の統合を目指して教育をしている。

2021年度の学部学生の実習は、保健師コース(選択制)の学生を対象とした。

地域保健として、東京都特別区では足立区(中央本町地域・保健総合支援課、竹の塚保健センター)、墨田区(向島保健センター、本所保健センター)、台東区(台東保健所保健サービス課)、葛飾区(青戸保健センター)、北区(北区保健所(王子健康支援センター、赤羽健康支援センター))の5区(9か所)で行った。

東京都特別区以外の地域保健では、千葉県柏市、鹿児島県鹿児島市中央保健センターで実習を行った。

学校保健として、筑波大学附属小学校、お茶の水女子大学附属小学校、

産業保健として、株式会社 JAL グランドサービス、キヤノン電子株式会社、日本航空株式会社、ヤマトシステム開発株式会社で実習(一部遠隔実習)を実施した。

#### 2) 大学院教育

主に地域保健学特論Ⅰ、地域保健看護学演習Ⅰ、地域保健看護学特論Ⅱ、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱを担当している。

公衆衛生施策立案に必要な海外の理論である community as partner の洋書を精読し議論する講義や、日本の公衆衛生施策の動向や公衆衛生活動における実際の学びから、公衆衛生活動の企画・実施・評価に必要な知識と技術を修得できるように教育した。また、公衆衛生分野の研究を遂行するために、大学院生の関心のある専門領域の実践家や研究者を招いて指導を受ける機会を設けて必要な教育を行った。

#### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を目指して、低学年から地域理解の観点をもち、地域のあらゆる対象に適切に関わる力を育む。

保健師課程の教育では、特別区や市町村の保健所、保健センター、学校保健、産業保健など多様な場での実習を通して、保健師活動の実際や保健師の役割を学ぶことができる。将来、探求心とリーダシップを備え、自治体や

国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。

#### 2) 大学院教育

公衆衛生上の多様な健康課題をタイムリーに解決し発展に寄与できる研究者育成を目指し、研究の基礎となる知識・技術を習得できる研究教育体制を整えている。

また、大学院時代から第一線の実践家・研究者の研究や活動に触れる機会も積極的に設け、国際的に活躍できる 看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。具体的 には、学内外との共同研究、英語論文や書籍精読、英語論文執筆方法の学習機会、研究手法の演習などがある。

#### (5) 研究業績

#### [原著]

- Rumi Tsukinoki, Takehito Hayakawa, Aya Kadota, Yoshitaka Murakami, Katsuyuki Miura, Akira Okayama, Tomonori Okamura, Hirotsugu Ueshima, the NIPPON DATA90 Research Group. Smoking, blood pressure, and body mass index to estimate healthy life expectancy: NIPPON DATA90 International Journal of Epidemiology. 2021.09; 50;
- 1. 國府 幹子, 月野木ルミ. 壮年期にある重症心身障害者の母親への将来を見据えた訪問看護師の関わり 日本 看護科学雑誌. 2021.12; 41; 513-519
- 2. 本多 真耶, 月野木 ルミ. 退院支援看護師と退院支援係を担う病棟看護師との連携の実態とその効果 保健の 科学. 2021.03; 63(3); 207-212
- 3. 西谷梨花,田渕紗也香,月野木ルミ.行政保健師による精神障害者の就労継続支援の内容 (印刷中)日本公衆 衛生雑誌. 2021;

#### [書籍等出版物]

- 1. 月野木ルミ. 新高等保健体育. 大修館書店, 2021
- 2. 内富庸介監修, 今村晴彦, 島津太一監訳, 月野木ルミ共訳. 実装研究のための統合フレームワーク -CFIR-. 保健医療福祉における普及と実装科学研究会, 2021
- 3. 内富庸介監修, 梶有貴, 島津太一監訳, 月野木ルミ, 津田紫緒, 鈴木美穂 訳. 『ひと目でわかる実装科学: がん対策実践家のためのガイド』. 保健医療福祉における普及と実装科学研究会, 2021

#### [講演·口頭発表等]

- 1. Rumi Tsukinoki , Takehito Hayakawa , Aya Kadota , Yoshitaka Murakami, Katsuyuki Miura, Tomonori Okamura , Akira Okayama, Hirotsugu Ueshima. Smoking, blood pressure, and body mass index to estimate healthy life expectancy: NIPPON DATA90.. the 22th International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology 2021 2021.09 Melbourne , Australia
- 1. 西谷梨花,田渕紗也香,月野木ルミ.行政保健師が行う精神障害者に対する就労支援の内容.第80回日本公衆衛生学会総会2021.12.21東京都新宿区
- 2. 月野木ルミ,大澤絵里,今村晴彦,村上義孝,眞崎直子,岡村智教.子育て中の被扶養者女性向けの健康診断促進パンフレットの作成.第80回日本公衆衛生学会総会 2021.12.21 東京都新宿区
- 3. 津田紫緒, 中谷久恵. 産業保健看護職者の専 門教育制度の国際比較. 第80 回日本公衆衛生学会総会 2021.12.21 ハイブリッド(東京・オンデマンド)
- 4. 中谷久恵, 藤田麻理子, 津田紫緒. 産業看護職の家族支援への関心と 学習ニーズの実態調査. 日本地域看護 学会第24回学術集会2021.09 オンライン開催
- 5. 月野木ルミ, 村上 義孝, 今村 晴彦, 岡村 智教. 都市部子育て世代女性における、健康と子育てに関する情報源と健診受診との関連. 第31回日本疫学会学術総会 2021.01 web

#### [その他業績]

- 1. 品川区 20 歳からの健康診査 受診啓発パンフレット作成, 月野木ルミ, 2021 年 06 月 https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kenkou/kenkou-byouki/kenkou-byouki-kenshin/hpg000013364.html
- 2. 第 14 回品川子育てメッセ 2021 講演講師, 月野木ルミ, 2021 年 10 月 子育て世代の親に向けた健康管理に関する講演 「意外に話せない産後の変化、聞いてみよう!」
- 3. 第 14 回品川子育てメッセ 2021 協賛出展, 月野木ルミ, 2021 年 10 月 品川区の健診受診啓発活動推進
- 4. 新潟県立新潟南高等学校 講義, 月野木ルミ, 2021 年 12 月 高校 1~3 学年の希望者に向けた大学講義の実施

- 1. 日本高齢者虐待防止学会評議員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009年07月01日-現在
- 2. 日本在宅ケア学会 査読委員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2012 年 04 月 01 日 現在
- 3. 日本在宅ケア研究所倫理審査委員会委員 佐々木明子, 2013年04月01日 現在
- 4. 日本公衆衛生学会 モニタリングレポート委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2014 年 04 月 01 日 2026 年 04 月 01 日
- 5. 日本在宅ケア学会評議員 佐々木明子,日本在宅ケア学会,2015年04月01日-現在
- 6. 日本公衆衛生学会代議員 佐々木明子, 日本公衆衛生学会, 2017年07月01日-現在
- 7. 品川子育てメッセ 2018-2021 協賛, 月野木ルミ, 2018 年 10 月 30 日 現在
- 8. 日本在宅ケア教育研究センター理事 佐々木明子, 2019年 05月 現在
- 9. 日本看護科学学会 英文誌編集委員, 月野木ルミ, 2019年07月11日 2023年06月30日
- 10. Journal of Occupational Health 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Occupational Health, 2020 年 現在
- 11. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 2020 年 現在
- 12. International Journal of Environmental Research and Public Health reviewer, 月野木ルミ, International Journal of Environmental Research and Public Health, 2020 年 現在
- 13. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020年 04月 08日 現在
- 14. 日本公衆衛生学会 編集委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2021年01月01日 2023年12月31日
- 15. 日本公衆衛生学会 代議員, 月野木ルミ, 2021年07月01日 2023年06月30日
- 16. 江戸川保健所業務継続のための支援, 2021 年 08 月 16 日 現在
- 17. 日本看護科学学会 和文誌査読委員, 月野木ルミ, 2021年09月07日 2026年09月06日
- 18. 日本公衆衛生学会 学会連携推進委員, 月野木ルミ, 2021 年 11 月 11 日 2023 年 10 月 30 日

## 地域健康增進看護学

## Community Health Promotion Nursing

森田 久美子(教育教授) 暁衛 (大学院生) 呂 三村 祐美子(大学院生) 佳代 (大学院生) 丸山 保木 みか (大学院生) 大竹 文 (大学院生) 角田 紘子 (大学院生) 庄司 花円(大学院生) 三橋 佳代子(大学院生) 中野 愛子 (研究生) 山本 晴美(研究生)

#### (1) 分野概要

本分野における教育・研究の内容は、対象の年齢も活動の場も非常に多岐にわたります。幼少期から良い生活習慣を習得し、中高年期での高い健康レベルとQOLを維持できるようにするためにはどのような対策が必要か、それを保健医療福祉制度や公衆衛生、産業保健といった観点から学んでいきます。

健康教育では、正しい情報、知識を提供することも大切ですが、それ以上に健康教育を受けた対象者が行動変容を起こし、病気の予防・改善につながることが最も重要になります。そのために、どのような健康教育が効果的なのか、企画・実施・評価それぞれの段階で検証していくことを目標としています。

研究は、主として高齢者と子ども達との世代間交流や、地域 · 在宅で暮らす高齢者の介護予防、産業保健分野での 生活習慣病予防等に関する調査を行っています。

#### (2) 研究活動

最近の研究テーマは、「世代間交流プログラムの効果」です。高齢者と若い世代の交流が、以前に比べて非常に少なくなっている現在、高齢者と子ども達が交流を行うことにより、双方にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的に調査を実施しています。また、共同研究として「予防訪問の有用性と効果的運用方法」「地域保健活動における家庭訪問の成果を評価できる電子訪問記録の開発」に関する調査の一部を分担して行っています。

#### (3) 教育活動

学部教育では、看護学専攻の専門共通分野に含まれる産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習を担当しています。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出題される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっています。本分野を選択した学生の研究テーマは、「女子大学生のボディイメージ、食行動、自尊感情の関連性」「大学生の食生活の現状と間食に関する意識」「子宮頸がん予防に関する意識調査」「臓器移植に関する紙面上の情報提供が与える認知度向上への効果」などさまざまです。研究については、出来る限り学生の主体性を尊重し、興味関心のあるテーマで研究が進められるようにサポートしています。

大学院教育では、健康寿命の延伸を目指して、日常の生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、その基本的考え方と研究法を修得する、また健康教育技法について、国内外の文献を吟味し、企画から評価までの

一連の流れを講義と討議により修得するということを目標としています。地域健康増進看護学特論・演習では、よりよい健康を目指して、人々が行動変容するために必要な支援は何かを考え、健康教育の企画から評価までの一連の流れを演習する、また、健康教育の理論や技術を学び、さまざまな対象、地域にあわせた健康教育を実践できる能力・研究方法を演習により修得することを目標としています。

#### (4) 研究業績

#### [原著]

- Kumiko Morita, Minako Kobayashi, Rieko Aoki, Hitomi Nagamine, Harumi Yamamoto, Fumi Ohtake, Mika Hoki, Hiroko Sumita, Kayo Maruyama, Kayoko Mitssuhashi, Akiko Sasaki. Factors that facilitate multigenerational exchanges in regional locations: a cross - sectional study in Niigata City, Japan Archives of Public Health. 2021.03; 79(41);
- Xiaowei Lyu, Kumiko Morita, Hitomi Nagamine, Kayo Maruyama. Effectiveness of health education programme of primary school-aged children in the urban area of China Journal of Medical and Dental Sciences. 2021.01; 68; 63-74
- 1. 小林 美奈子, 森田 久美子. 高齢女性の認知的ソーシャルキャピタルに関連する要因 東海公衆衛生雑誌. 2021.07; 9(1); 138-145
- 2. 丸山 佳代, 永嶺 仁美, 森田 久美子. 小学生の子を持つ保護者の食行動に関連する要因 保護者の性別による 違いから 日本健康医学会雑誌. 2021.01; 29(4); 417-424

#### [講演·口頭発表等]

- 1. 森田 久美子、小林 美奈子、青木 利江子、佐々木 明子、 山本 晴美、永嶺 仁美、三村 祐美子、丸山 佳代、保木 みか、 大竹 文、角田 紘子、三橋 佳代子、北東 美枝. 新型コロナウイルス感染症流行下における世代 間交流の実践事例. 第80回日本公衆衛生学会総会 2021.12.21 東京
- 2. 角田紘子, 森田久美子. 高校生のがんの知識に関連する要因の検討. 第80回日本公衆衛生学会総会 2021.12.21 東京
- 3. 角田紘子, 森田久美子. 高校生のがんに関する病院受診意図と受診の障壁についての実態調査. 日本学校保健 学会第67回学術大会2021.11 愛知
- 4. 森田久美子, 小林美奈子, 青木利江子, 佐々木明子, 永嶺仁美, 山本晴美, 三村祐美子, 丸山佳代, 保木みか, 大竹文, 角田紘子, 石井佳代子, 北東美枝. 地域でのつながりを継続することによる高齢者のフレイル予防 —世代間交流を含む活動事例より—. 第12回日本世代間交流学会2021.10.02オンライン開催

- 1. 日本在宅ケア学会 査読委員, 2010年 現在
- 2. お茶の水看護学研究会 編集委員, 2010年 04月 現在
- 3. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 2010年 04月 現在
- 4. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 2012 年 11 月 現在
- 5. 日本看護科学学会 查読委員, 2015年 現在
- 6. 日本世代間交流学会 編集委員, 2015年01月 現在
- 7. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 2015 年 10 月 現在
- 8. 日本地域看護学会 查読委員, 2016年 現在
- 9. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (大久保功子、緒方泰子、佐々木吉子、田中真琴、近藤暁子、森田 久美子、山﨑智子、高野歩、佐々木美樹、野口麻衣子、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口 綾子、大河原知嘉子、藤波景子), 2021 年 08 月 18 日 現在

## 先端侵襲緩和ケア看護学

#### Critical and Invasive-Palliative Care Nursing

教 授 田中 真琴 准教授 川上 明希 助 教 川本 祐子 助 教 碓井 瑠衣(2021年3月まで) 教育支援者 鈴木 のどか(2021年3月まで) 大学院生 畑中 佳子 藤田 和寿 染谷 彰 岩下 絵梨香 大脇 郷奈

#### (1) 分野概要

近年のめざましい医療技術の発展に伴い、高度医療によって救命や延命される機会が向上しました。また、難治性の慢性疾患に関しても、新しい治療法の開発が進んでおり先端医療の恩恵を受ける人々も増えています。先端侵襲緩和ケア看護学では、このような状況下にある患者や家族の苦痛等を緩和し、安全安楽にその人らしく生活できるよう支援するために、また病気とうまく付き合っていけるよう支援するために、重篤期から回復期、セルフマネジメントに至るまで、さらには緩和ケアを含めた専門的看護のあり方と看護支援方法に関する教育や研究を行っています。

#### (2) 研究活動

研究については、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいます。

【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】 慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネージメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいます。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っています。

【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族の QOL 向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいます。

侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功 · 回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っています。

#### (3) 教育活動

教育については、学部教育では成人看護学を担当しています。2年次では、講義を中心として成人期にある人々の理解と必要な看護の原則について教授しています。3年次前期では、シミュレーションを取り入れた演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合を行い、第一線で活躍する看護師による実践論の講義を通して、多様な看護の可能性について学生の理解や関心の向上を支持しています。そして、3年次後期には、本学附属病院の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとに成人看護学実習を展開しています。また当分野での卒業研究を選択した学生については、学生の知的好奇心を大いに刺激しつつ指導に当たっています。

大学院教育では、当分野の研究指導は、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、学位論文として当該領域の発展 に寄与する研究となるよう、ゼミと個別指導を効果的に組み合わせて実施しています。成人領域における看護の 専門性の追求と発展を目指した教育、研究指導を行っています。

#### (4) 研究業績

#### [原著]

- 1. Kawashima T, Kawakami A, Ashida K, Tanaka M. Development of the nursing practice scale for end-of-life family conferences in critical care. Intensive & critical care nursing. 2021.10; 66; 103076
- 2. Nana Owaki, Makoto Tanaka, Aki Kawakami. Development of the Japanese Version of the Strain of Care for Delirium Index Among Intensive Care Nurses: A Validation Study Journal of the Ochanomizu Association for Academic Nursing. 2021.09; 16(1); 1-13
- 3. Akira Someya, Makoto Tanaka. The process by which patients become aware of unilateral spatial neglect: A qualitative study. Neuropsychological Rehabilitation. 2021.07; 1-22
- 4. Ashida Kaoru, Kawakami Aki, Kawashima Tetsuharu, Tanaka Makoto. Values and self-perception of behaviour among critical care nurses NURSING ETHICS. 2021.06; 969733021999738
- 5. Yuko Kawamoto, Sumika Oda, Makoto Tanaka. Antigen avoidance in people with hypersensitivity pneumonitis: A scoping review Heart and Lung. 2021.01; 50(3); 407-416
- Tanaka Makoto, Kawakami Aki, Maeda Shin, Kunisaki Reiko, Morisky Donald E.. Validity and Reliability
  of the Japanese Version of the Morisky Medication Adherence Scale-8 in Patients With Ulcerative Colitis
  GASTROENTEROLOGY NURSING. 2021; 44(1); 31-38
- 1. 鈴木 のどか, 柏木 聖代. 介護保険事業者における事故発生時の自治体への報告基準の現状 「介護保険事業者における事故発生時の報告取扱要領」の分析から 日本健康医学会雑誌. 2021.07; 30(2); 223-230
- Kawakami Aki, Kwong Enid W. Y., Lai Claudia K. Y., Song Mi Sook, Boo Sunjoo, Yamamoto-Mitani Noriko. Advance care planning and advance directive awareness among East Asian older adults: Japan, Hong Kong and South Korea GERIATRICS & GERONTOLOGY INTERNATIONAL. 2021.01; 21(1); 71-76
- 3. 川島 徹治, 田中 真琴, 川上 明希. 集中治療領域での終末期患者と家族へのインフォームド・コンセントにおける看護師の実践:エキスパート看護師を対象とした難易度調査 日本クリティカルケア看護学会誌. 2021;

#### [講演·口頭発表等]

- 1. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Hiroaki Ito. Development of a Japanese version of the IBD Self-Efficacy Scale and evaluation of its current status in Japan. The 16th Europe Crohn's and Colitis Organization 2021.07.02 Virtual
- 1. 蘆田薫, 川島徹治, 川上明希, 川本祐子, 田中真琴. 看護学生の倫理教育における Moral Case Deliberation(MCD) 導入の有用性の検討. 第 41 回日本看護科学学会 2021.12.04 web 開催
- 2. 川上明希, 田中真琴, 坂上佳誉子, 伊藤裕章. 炎症性腸疾患患者による電話相談に関する 1 施設調査. 第 12 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2021.11.26
- 3. 田中真琴, 川上明希, 阪上佳誉子, 寺井朋子, 伊藤裕章. IBD 自己効力感尺度 (日本版) の開発および日本人 IBD 患者の疾患管理自己効力感の実態 :IBD 専門施設とオンラインリクルート調査の比較. 第 107 回日本 消化器病学会総会 2021.04.17

- 1. お茶の水会看護同窓会, 2002年04月-現在
- 2. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010 年 04 月 01 日 現在
- 3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012年04月01日 現在
- 4. 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 広報委員会, 2013年08月21日-現在
- 5. 四大学平成卒業生の会連合会, 2014年 06月 現在
- 6. 日本看護科学学会 查読委員, 2015年10月01日 現在
- 7. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021 年 08 月 18 日 現在
- 8. 江戸川区保健所コロナ対応業務, 2021年09月

## 精神保健看護学

## Mental Health and Psychiatric Nursing

准 教 授 高野歩

美濃由紀子 (休職中)

助教栗林一人技術補佐員野沢恭介事務補佐員江波戸夕香

大学院生(博士後期) 松浦佳代 5年一貫博士課程 高濱圭子

> 富川明子 栗原淳子 平岩千明 及川江利奈

奈良麻結(2021年4月~)

#### (1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルへルス支援への必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護 ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

本研究分野の主な研究テーマは、精神疾患患者とその家族のケア、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援、精神疾患患者の退院および地域生活促進、地域・学校保健・産業保健における精神保健問題の理解と支援、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上、司法精神医学・看護学に関する研究等である。

#### (2) 研究活動

- 1. 精神疾患患者とその家族への支援
- 2. 思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援
- 3. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
- 4. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
- 5. 司法精神医学 · 看護学に関する研究

#### (3) 教育活動

当分野では、精神保健と精神看護、双方の視点からあらゆる人の精神的健康の維持・向上を支援するための理念 および実践方法について教育を行っている。また、新たな時代のニーズに応える精神看護学の研究の発展に貢献 できる研究者の人材育成に力を入れている。

#### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

- 1. 精神看護学では、精神看護実践の前提となる、精神疾患の病態、精神科診断学、治療学等の精神医学の基礎知識を習得する。司法精神医療等、精神医療の関連領域における治療の理論や方法について理解する。精神医療・精神保健福祉における法律、制度、施策に関する知識を習得し、わが国における課題について考察する。これらの内容を看護学の視点から再考し、看護職の役割や看護援助への活用について考察する。
- 2. 地域精神看護学では、様々な精神的健康問題に関する社会状況と支援方法について理解する。地域で生活する精神障害を有する人の健康や生活の質の向上を支援するために必要な社会資源に関する基礎知識を習得する。精神保健医療福祉システムの中で看護職が担う役割について考察する。
- 3. 精神看護学演習では、演習を通じて精神看護の実践に必要な援助の理論と方法を習得する。精神障害を有する人における精神疾患と生活障害との関連について、セルフケアモデルやストレングスモデルによりアセスメントし、必要な看護援助を考案する。援助的な対人関係を構築する技術を身につけ、精神障害を有する人の回復、成長、自立を支援するための知識と技術を身につける。グループワークを通して、他者と協働して学習する能力を養う。
- 4. 精神看護学実習は、精神障害者に対する理解を深め、自己理解および対人関係を構築、発展させるプロセスを通して、精神看護実践の基本的能力を修得する。地域施設において、地域で生活する精神障害者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害と生活状況との関連についての理解を深めながら、精神障害者の地域生活支援の方法について学ぶ。また、精神障害者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて看護師が担うべき役割について学修する。

#### 2) 大学院教育

- 1. コンサルテーション論では、看護師の問題解決に必要なコンサルテーションの概念および実践モデルを理解し、高度な看護実践におけるコンサルテーション活動を展開するための基礎能力を養う。
- 2. 精神保健看護学特論 I では、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組み、ならびに様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について学修する。精神医学的診断法や心理測定法、精神療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法についての理解を深め、看護学の視点に基づく評価と援助を実践する能力を養う。
- 3. 精神保健看護学演習 I では、精神保健看護学に関する研究のクリティークを通し、精神保健看護学分野における研究の動向や課題について理解を深める。
- 4. 精神保健看護学特論Ⅱでは、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得する。精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究ができる能力を修得する。

#### (5) 研究業績

#### [原著]

- 1. Ayumi Takano, Hayato Yamana, Sachiko Ono, Hiroki Matsui, Hideo Yasunaga. Outpatient treatment following alcohol screening at health checkups and change in drinking patterns among excessive drinkers with lifestyle-related diseases. Prev Med Rep. 2021.12; 24; 101549
- 2. Toshitaka Hamamura, Shinichiro Suganuma, Ayumi Takano, Toshihiko Matsumoto, Haruhiko Shimoyama. The Effectiveness of a Web-Based Intervention for Japanese Adults with Problem Drinking: An Online Randomized Controlled Trial Addictive Behaviors Reports. 2021.12; 100400
- 3. Kotaro Imamura, Thuy Thi Thu Tran, Huong Thanh Nguyen, Natsu Sasaki, Kazuto Kuribayashi, Asuka Sakuraya, Thu Minh Bui, Anh Quoc Nguyen, Quynh Thuy Nguyen, Nga Thi Nguyen, Kien

Trung Nguyen, Giang Thi Huong Nguyen, Xuyen Thi Ngoc Tran, Tien Quang Truong, Melvyn Weibin Zhang, Harry Minas, Yuki Sekiya, Kazuhiro Watanabe, Akizumi Tsutsumi, Norito Kawakami. Effect of smartphone-based stress management programs on depression and anxiety of hospital nurses in Vietnam: a three-arm randomized controlled trial Scientific Reports. 2021.11; 11(1);

- 4. Ayumi Takano, Toshihiko Matsumoto. A Mixed-Methods Evaluation of Usability and Acceptability of Web-Based Relapse Prevention and Self-Monitoring Program: Secondary Analysis of a Pilot Randomized Controlled Trial Frontiers in Psychiatry . 2021.02; 12:625480; 1-8
- 5. Sasaki N, Imamura K, Tran TTT, Nguyen HT, Kuribayashi K, Sakuraya A, Bui TM, Nguyen QT, Nguyen NT, Nguyen GTH, Zhang MW, Minas H, Sekiya Y, Watanabe K, Tsutsumi A, Shimazu A, Kawakami N. Effects of Smartphone-Based Stress Management on Improving Work Engagement Among Nurses in Vietnam: Secondary Analysis of a Three-Arm Randomized Controlled Trial Journal of Medical Internet Research . 2021.02; 23(2); e20445
- Ayumi Takano, Maiko Fukasawa, Kazuhiro Watanabe, Daisuke Nishi, Norito Kawakami. Adolescent Work Values and Drug Use in Adulthood: A Longitudinal Prospective Cohort Study. Subst Use Misuse. 2021; 56(10); 1483-1492

#### [総説]

1. Yasuma, N., Imamura, K., Watanabe, K., Nishi, D., Kawakami, N., Takano, A. Association between energy drink consumption and substance use in adolescence: A systematic review of prospective cohort studies Drug Alcohol Dependence. 2021.02; 219;

#### [講演·口頭発表等]

- 1. Takano A, Ban E, Usami T, Kanazawa Y, Kumakura Y, Matsumoto T. Factors Associated with Post One-Year Illicit Drug Use among Persons on Probation in the Japanese Criminal Justice system: A Prospective Cohort Study. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 83rd Annual Scientific Virtual Meeting 2021.06.23 Virtual
- 1. 高野歩, 大野昴紀, 野沢恭介, 篠崎智大. 飲酒状況セルフモニタリングアプリの有効性検証:ランダム化比較 試験プロトコル. 第 56 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2021.12.19 三重、オンライン
- 2. 高野歩, 大野昴紀, 野沢恭介, 松本俊彦, 松下幸生, 湯本洋介, 小貫真希, 妙圓園香苗, 佐藤牧人, 瀬々潤. モバイルデバイスを用いたアルコール・薬物使用リアルタイムデータ収集と介入プログラムの開発. 第 56 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2021.12.18 三重、オンライン
- 3. 徳重誠, 大野昴紀, 浅岡紘季, 館農勝, 宮本有紀, 高野歩. ゲーム障害尺度スクリーニング尺度日本語版 (GADIS-A/GADIS-P) の言語的妥当性と実施可能性の検討. 第 56 回日本アルコール・アディクション医学 会学術総会 2021.12.18 三重、オンライン
- 4. 大野昴紀, 徳重誠, 浅岡紘季, 宮本有紀, 館農勝, 高野歩. インターネットゲーム障害スクリーニング尺度日本 語版(IGDS/PIGDS)の言語的妥当性と実施可能性の検討. 第 56 回日本アルコール・アディクション医学 会学術総会 2021.12.18 三重、オンライン
- 5. 高野歩. 日本におけるハームリダクションを考える. 第 56 回日本アルコール · アディクション医学会学術総会 2021.12.17 三重、オンライン
- 6. 高野歩. アルコール問題に対するハームリダクションアプローチ. 第 43 回全国大学メンタルヘルス学会 2021.12.16 オンライン
- 7. 栗原淳子. 病の意味についての文献検討. 第41回日本看護科学学会学術集会 2021.12.05 Web 開催
- 8. 高濱圭子「他」. 看護領域における事例検討会の効果と課題に関する文献の検討 (第2報) ―デスカンファレンスに焦点をあてて―. 第41回日本看護科学学会学術集会 2021.12.04 愛知県 (Web)
- 9. 栗原淳子、大木友美、渡辺純子. 看護師の統合失調症患者に対する態度に関連する要因. 第5回日本国際看 護学会学術集会 2021.09.04 Web 開催
- 10. 高野歩, 平岩千明, 及川江利奈, 冨川明子, 野沢恭介. Substance Use Stigma Mechanism Scale 日本語版の信頼性・妥当性の検討. 第 31 回日本精神保健看護学会学術集会 2021.06.06 オンライン

- 11. 野沢恭介, 平岩千明, 及川江利奈, 冨川明子, 高野歩. Self-Efficacy in Seeking Mental Health Care 日本語版 の因子的妥当性の検討. 第 31 回日本精神保健看護学会学術集会 2021.06.06 オンライン
- 12. 栗原淳子. 精神科救急入院料病棟における看護実践についての文献検討. 第31回日本精神保健看護学会学 術集会 2021.06.05 Web 開催
- 13. 高野歩. ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬の長期処方に関する実態調査. 医療経済研究会 2021.02.22 東京
- 14. 館農 勝, 高野 歩, 松崎 尊信, 樋口 進. 児童思春期症例に対応する医療機関におけるゲーム障害・ネット依存の診療実態調査. 北海道児童青年精神保健学会第 45 回例会 2021.02.07 札幌(オンライン)

#### [受賞]

1. 東京医科歯科大学 医学研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2021年10月

#### [その他業績]

1. 東京医科歯科大学とアルコール · 薬物依存症の方に対する行動変容をサポートする AI 開発に関する共同研究を開始しました, 2021 年 06 月

- 1. 企画委員, アルコール関連問題予防研究会, 2011年 04月 現在
- 2. フィリピン「科学的根拠に基づく薬物依存症治療プログラム導入プロジェクト」 国内支援委員会研究部会 メンバー, JICA, 2017 年 05 月 現在
- 3. 查読委員, 日本精神保健看護学会, 2017年07月-現在
- 4. Membership Committee, International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA) , 2018 年 01 月 現在
- 5. 客員研究員, 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部, 2018 年 04 月 現在
- 6. 普及アドバイザー, A/CRA/FT ASIA, 2019年01月 現在
- 7. 社会貢献委員, 日本精神保健看護学会, 2019年09月-現在
- 8. 和文誌専任査読委員, 日本看護科学学会, 2019年10月-現在
- 9. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020年 04月 08日 現在
- 10. 厚生労働委託事業 新型コロナウイルス感染症に対する障害者施設等の職員のためのサポートガイド作成業務等一式, 厚生労働省, ガイドラインの作成事業メンバー, 2020 年 09 月 04 日 2021 年 03 月 31 日
- 11. ハームリダクション特別委員会, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020年10月-現在
- 12. 理事, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020年 10月 現在
- 13. 学術評議員, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020年 10月 現在
- 14. 広報委員会, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020 年 10 月 現在
- 15. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人), 2021 年 08 月 18 日 現在
- 16. プログラム委員, 第 57 回日本アルコール・アディクション医学会, 2021 年 10 月 2022 年 09 月
- 17. アルコール問題に対するハームリダクションアプローチ, アルコール関連問題予防研究会, オンライン, 2021 年 11 月 18 日

## 小児. 家族発達看護学

## Child and Family Nursing

 准教授
 岡光
 基子

 助教
 矢郷
 哲志

 大学院生
 鈴木
 香代子

 大学院生
 勝本
 祥子

 大学院生
 朝見
 優子

 大学院生
 佐藤
 文敬

大学院生 佐藤 文敬 研究生 来生 奈巳子 ( $\sim 2021$  年 3 月)

研究生 岡林 優喜子 技術補佐員 松﨑 愛

#### (1) 分野概要

小児看護学を専門とする教育分野として発足し、平成20年度からは、乳幼児精神保健に関する知識とスキルを持つ小児専門看護師(CNS)養成カリキュラムの運用を始め、小児看護の高度専門家の養成とその領域における研究を遂行している。研究においては、乳幼児とその家族に対する早期介入支援を主要なテーマとして取り組み、研究成果を報告している。また、日本語版NCASTやファミリーパートナーシップモデルに基づく妊娠期からの育児支援など、専門職向けの講習会を開催している。

#### (2) 研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害など、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップに基づく育児支援プログラム導入による介入効果の検証
- 5) 生後早期における父子の関係性支援介入
- 6) 周産期における母児エピゲノムの体系的解析
- 7) 幼児の社会―情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 8) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 9) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討
- 10)子どもの問題行動と親のペアレンティングに焦点を当てたピア主導型育児支援プログラムの開発などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、6) においては、東京医科歯科大学医学部附属病院周産女性診療科、発生発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

#### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

小児看護学 I · II 、小児看護学演習 I · II 、小児看護学実習、卒業論文 II 、看護の統合と実践(1 コマ)を担当している。卒業論文 II においては、4 名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口

頭発表をするまでを指導した。また、歯学部口腔保健衛生学専攻の講義を担当した。 2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論Ⅰ・Ⅱ、小児家族発達看護学演習Ⅰ、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび共通科目である家族看護学特論の他、精神保健看護学特論Ⅰと先端侵襲緩和ケア看護学演習Ⅰの講義を担当した。

#### (4) 臨床活動および学外活動

1型糖尿病の患者・家族会(東京わかまつ会)の運営に携わっている。

#### (5) 研究業績

#### [原著]

- 1. Sato N, Fudono A, Imai C, Takimoto H, Tarui I, Aoyama T, Yago S, Okamitsu M, Mizutani S, and Miyasaka N. Placenta mediates the effect of maternal hypertension polygenic score on offspring birth weight: a study of birth cohort with fetal growth velocity data BMC Medicine. 2021.11; 19(1); 260
- 2. Fudono A, Imai C, Takimoto H, Tarui I, Aoyama T, Yago S, Okamitsu M, Muramatsu M, Sato N, Miyasaka N.. Trimester-specific associations between extracellular vesicle microRNAs and fetal growth. J Matern Fetal Neonatal Med. 2021.11; 1-7
- 3. Imai C, Takimoto H, Fudono A, Tarui I, Aoyama T, Yago S, Okamitsu M, Sasaki S, Mizutani S, Miyasaka N, Sato N. Application of the Nutrient-Rich Food Index 9.3 and the Dietary Inflammatory Index for assessing maternal dietary quality in Japan: a single-center birth cohort study Nutrients. 2021.08; 13; 2854

#### [書籍等出版物]

1. 加藤則子, 菅井敏行, 岡光基子, 矢郷哲志, 津田芳見, 市川香織, 神尾美香子, 民秋言, 小田豊, 栃尾勲, 無藤隆, 矢藤誠慈郎. 子どもの健康と安全(新保育ライブラリ). 北大路書房, 2021.03

#### [講演·口頭発表等]

- 1. Yago S, Okamitsu M, Sato N, Takimoto H, Imai C, Fudono A, Yomogida H, Aoyama T, Miyasaka N. Perinatal maternal mental health, sleep quality, and infant development: A Japanese prospective cohort study. World Association for Infant Mental Health(WAIMH) 17th Congress 2021.06.22 Melbourne
- 2. Okamitsu M, Yago S, Komoto K, Okubo N. Effectiveness of a training program based on the Family Partnership Model for antenatal and postnatal support. World Association for Infant Mental Health(WAIMH) 17th Congress 2021.06.22 Melbourne
- 3. Yago S, Tsukamoto E, Saito A, Takahashi Y, Saito E. Utilization of The Newborn Behavioral Observations (NBO) Systemin in Early Intervention for Infants and Their Parents: A Scoping Review. 24th East Asian Forum of Nursing Scholars 2021.04.16 Manila
- 1. 野村智実, 岡光基子, 矢郷哲志, 大森貴秀. 自閉的行動のある乳幼児をもつ親の養育上の悩み・メンタルヘルス・夫婦関係:両親間の差異と関連. 乳幼児保健学会第 14 回学術集会 2021.11.06
- 2. 鈴木香代子,岡光基子,矢郷哲志. 親子の関係性を促進するための看護職による Universal Preventive Intervention と その効果に関する文献検討. 乳幼児保健学会第 14 回学術集会 2021.11.06
- 3. 今井千裕, 藤原綾, 瀧本秀美, 不殿絢子, 樽井依織, 青山友子, 矢郷哲志, 岡光基子, 宮坂尚幸, 佐藤憲子. Nutrient-Rich Food Index および Dietary Inflammatory Index を用いた妊婦の食事の質の解析. 第75回日本栄養・食糧学会大会 2021.07.03

- 1. 乳幼児保健学会 理事(岡光基子), 2012年04月01日-現在
- 2. お茶の水看護学研究会 会長(岡光基子), お茶の水看護学研究会, 2016年04月01日 2021年03月31日
- 3. 日本乳幼児医学·心理学研究 查読委員(岡光基子), 日本乳幼児医学·心理学会, 2016 年 04 月 01 日 2021 年 03 月 31 日
- 4. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査(岡光基子), 東京わかまつ会, 2016 年 04 月 01 日 現在
- 5. 乳幼児保健学会 事務局 (矢郷哲志), 2016年04月01日-現在
- 6. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ (矢郷哲志), 2016 年 04 月 01 日 現在
- 7. 日本体育大学 非常勤講師 (岡光基子), 2016年04月01日-現在
- 8. お茶の水看護学研究会 編集委員 (岡光基子), 2016年04月01日 現在
- 9. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」DD ユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」 講師(岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016 年 07 月 20 日 現在
- 10. JNCAST 講習会 講師 (岡光基子), 東京医科歯科大学, 東京有明医療大学, 2017年 08月 26日 現在
- 11. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師(岡光基子), 小田原保健福祉事務 所/柏市保健所, 2017 年 09 月 28 日 現在
- 12. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート 保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師(矢郷哲志), 2017 年 09 月 28 日 現在
- 13. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師(矢郷哲志), 小田原保健福祉事務 所/柏市保健所, 2017 年 09 月 28 日 現在
- 14. 東京有明医療大学 非常勤講師 (矢郷哲志), 2018年04月01日 2021年03月31日
- 15. 日本体育大学 特別講師 (矢郷哲志), 2018年04月01日-現在
- 16. 東京医科歯科大学生活協同組合 理事 (矢郷哲志), 2018年05月-2021年05月
- 17. 乳幼児保健学会 評議員 (矢郷哲志), 2019年04月01日-現在
- 18. お茶の水看護学雑誌 査読委員(矢郷哲志),お茶の水看護学研究会,2019年04月01日-現在
- 19. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース) 作成協力 (矢郷哲志) , 日本小児看護学会 , 2019 年 05 月 2021 年 03 月
- 20. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース) 教材作成(岡光基子), 日本小児看護学会, 2019 年 05 月 22 日 - 2021 年 03 月 31 日
- 21. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース)講師(岡光基子), 日本小児看護学会, 2019 年 05 月 22 日 2021 年 03 月 31 日
- 22. 日本乳幼児医学·心理学会 理事、学会誌副編集委員長(岡光基子),日本乳幼児医学·心理学会,2020年 04 月 01 日 現在
- 23. 静岡県立大学大学院看護学研究科 非常勤講師 (岡光基子), 2020年04月01日-現在
- 24. 文京保健所業務継続のための応援派遣(岡光基子), 2020年 04月 08日 現在
- 25. 文京保健所業務継続のための応援派遣(矢郷哲志), 2020年 04月 08日 現在
- 26. 新型コロナウイルス感染症関連の応援業務 PCR 検査の補助 (岡光基子), 東京医科歯科大学附属病院, 2021 年 02 月 01 日 2021 年 03 月 31 日
- 27. 新型コロナウイルス感染症関連の応援業務 PCR 検査の補助(矢郷哲志), 東京医科歯科大学附属病院, 2021 年 02 月 01 日 2021 年 03 月 31 日

#### 臨床看護開発学講座 精神 · 人間発達看護学

- 28. 第 30 回日本乳幼児医学 · 心理学会 座長 (岡光基子),日本乳幼児医学 · 心理学会,早稲田大学,2021 年 03 月 13 日
- 29. 乳幼児保健学会第 14 回学術集会 企画委員(矢郷哲志), 乳幼児保健学会, 2021 年 04 月 01 日 2021 年 11 月 06 日
- 30. 乳幼児保健学会第 14 回学術集会 大会長 (岡光基子), 乳幼児保健学会, 2021 年 04 月 01 日 2021 年 11 月 06 日
- 31. 第 31 回日本乳幼児医学 · 心理学会 事務局責任者 (矢郷哲志), 2021年 04月 01日 2022年 02月 19日
- 32. 第 31 回日本乳幼児医学 · 心理学会 大会長 (岡光基子),日本乳幼児医学 · 心理学会,東京医科歯科大学, 2021 年 04 月 01 日 2022 年 02 月 19 日
- 33. 「乳幼児医学・心理学研究」2021 年度特集号企画,日本乳幼児医学・ 心理学会,2021 年 04 月 01 日 2022 年 03 月 31 日

## リプロダクティブヘルス看護学

## Reproductive Health Nursing

教授 大久保 功子 講師 三隅 順子 助教 廣山 奈津子

大学院生

博士5年一貫課程

佐野 深雪鈴木 由美子佐藤 千鶴

石田 徹 (休学中) 今村 美聡 (休学中)

戸田 あゆみ

平岩 千明 (特別参加)

非常勤講師

遠藤 貴子 櫻井 亜古

#### (1) 分野概要

当該分野では、主に性と生殖に関する健康と権利にかかわる看護や助産についての研究教育を行っています。 周産期ならびに、女性の生涯にわたる看護あるいは助産に関する研究者に必要とされるであろう能力を高めるために、EBM や NBM の視点をおりまぜながら、研究のトレンドを探り、研究方法の歴史的背景や哲学的立場を踏まえ、深く掘り下げた研究クリティークを行っています。

学部教育では、看護師国家試験受験資格に必須とされている、母性看護学の講義、演習、実習、卒業論文を担当しています。

#### (2) 研究活動

現象学、GT、エスノグラフィー、疫学、演繹的帰納的アプローチ、ナラティヴ研究法など、研究課題に則して適切に研究方法を選択して取り組むべく、日夜努力しています。単なる手順として研究法を理解するのではなく、その歴史的背景や哲学から理解することを目指しています。女性と性的マイノリティの人のための看護実践、助産学、看護学、人間科学における知を開発するための研究にも取り組んでいます。かといって、量的研究を行わないわけではなく、疫学的手法や共分散構造分析を用いた尺度開発も行っています。

代替医療、精神分析学、対人関係論、カウンセリング理論、アタッチメント理論、絆理論、看護理論、助産理論に

ついても学び続けています。大久保は主に親子の精神的健康、三隅は DV に関心を持って研究と実践に取り組んでいます。

現在、ファミリーパートナーシップモデルの基となっている、Kelly 心理学の抄読会を予定しています。これらの活動に関しては、今後、オープンにしていく可能性があります。興味のある方は連絡をいただければと思います。 昔在籍していた櫻井さんが、論文執筆のために戻ってきてくださいました。今まで取りためたデータを形にすることで、社会に少しでも貢献出来たらよいと考えております。

#### (3) 教育活動

昨年度は勝又里織さんが学位を取得することができ、博士後期課程を修了しましたので、2020年度4月の時点で、大学院には博士5年一貫課程の7名の学生が在籍しています。精神保健看護学分野やがんエンドオブライフ看護学分野の学生さんも、時々ゼミに参加されています。

新型コロナ対策の影響で、Zoom でゼミや LINE を結んでのゼミを行っています。

教育活動として、自分の研究課題に取り組むだけではなく、様々な研究のプロセスを学びあい、お互いに切磋琢磨する環境づくりをこころがけています。現在は Mix Methods, GT, Narrative Method, Ethnomethodology と、実に多様な研究法で学生は研究に取り組んでおります。副指導担当となっている他領域の学生にも、当該分野のゼミに参加して発表し、議論していただいています。

#### (4) 教育方針

自分の心で感じ、頭で考え、書くことができる、これからの研究者を育てることをモットーとしています。

#### (5) 臨床活動および学外活動

大久保は主に質的研究、三隅は DV 被害者支援関係で全国行脚をしていました.

#### (6) 研究業績

#### [原著]

- 1. 佐藤 千鶴, 大久保 功子, 三隅 順子, 勝又 里織, 今村 美聡. 看護行為に対する早産児の反応に関する文献検討日本新生児看護学会誌. 2021.05: 27: 51-58
- 2. 塩野悦子, 大久保功子, 山田嘉明. 妊娠期の初産夫婦に対する産後クライシス予防プログラムの開発と有用性 宮城大学ジャーナル. 2021.01; 1(1); 32-42

#### [書籍等出版物]

- 1. 大久保功子. 看護学とナラティヴ. 勁草書房, 2021.03 (ISBN: 978-4-326-65340-9)
- 2. 大久保功子. 母性看護学 概論 · リプロダクテブヘルスと看護. メディカ出版, 2021.01 (ISBN: 978-4-8404-6517-5 C3347)

#### [総説]

- 1. 石田 徹、大久保 功子. 看護学分野におけるエスノメソドロジー研究の動向と活用可能性:国内外の文献から. 上智大学総合人間科学部看護学科紀要.. 2021.03; (5); 12-23
- 2. 佐藤千鶴、大久保功子、三隅順子、勝又里織、今村美聡. 看護行為に対する早産児の反応に関する文献検討 日本新生児看護学会誌. 2021.05; 27(May); 51-58

#### [講演·口頭発表等]

- 1. E.Shiono, M.Imamura, N.Okubo, C.Sato, M.Sano, N.Hiroyama, K.Yamaki;. The hardships of midwives in the care of perinatal women with mental illness. The 32nd ICM Virtual Triennial Congress in Bali 2021.06.14
- 1. 加納尚美,家吉望み,長江美代子,三隅順子,米山奈奈子.日本における性暴力対応看護師のためのコア・カリキュラムの検討.第8回日本フォレンジック看護学会学術集会 2021.08.29 大手前大学(〒 540-0008 大阪市中央区大手前 2-1-88)

#### [Works]

- 1. 【視聴覚教材】性暴力被害者ワンストップ支援センターでの対応について, 教材, 性暴力被害者ワンストップ 支援センターの新規支援者研修, 2017 年 05 月 - 現在
- 2. 【視聴覚教材】性暴力被害者対応①全身観察と証拠採取の方法, 教材, 女性の安全と健康のための支援教育センター SANE 研修, 2021 年 02 月 現在

#### [その他業績]

- 1. SANE 養成研修 オンライン, 2021 年 03 月 Sexual Assault Nurse Examiner の養成研修 40 時間/年のコースを企画運営している。
- 2. 精神障害を抱える妊産婦のケアで、助産師が直面する困難と対処 大久保功子(研究分担者): 科学研究費補助金(基盤研究 C)

- 1. SANE 研修 講義&ワーク:性暴力被害女性への看護の実際,女性の安全と健康のための支援教育センター, SANE 研修,東京有明医療大学,2004年04月01日 - 現在
- 2. 乳幼児保健学会理事, 2008年05月01日-現在
- 3. 御茶ノ水看護学研究会理事, 2010年10月01日 現在
- 4. 子どもの健康と環境に関する全国調査倫理問題検討委員, 国立環境研究所, エコチル調査, 2011 年 04 月 01 日 現在
- 5. SAFER 研修 ミニレクチャー&ワーク, NPO 法人 レジリエンス, 2012 年 12 月 12 日 現在
- 6. SARC 東京 支援員研修講座, SARC 東京, 江戸川グリーンパレス, 2018 年 05 月 19 日 現在
- 7. ワンストップ支援センター和歌山 mine ボランティア養成研修, NPO 法人 レジリエンス, 和歌山性暴力 被害者支援研修 2018, 和歌山県 和歌山ビッグ愛:〒 640-8319 和歌山市手平 2 丁目 1-2 , 2018 年 08 月 18 日 現在
- 8. 日本看護科学学会代議員, 2019年06月30日 現在
- 9. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020年 04月 08日 現在
- 10. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山﨑智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021 年 08 月 18 日 現在

## 在宅ケア看護学

## Home Care Nursing

教授 福井 小紀子 准教授 野口 麻衣子 プロジェクト講師 大槻 奈緒子

院 生 柿沼 直美

相島 美彌 坂野 朋未 佐川美枝子

野中さゆり

研究生 野々村ゆかり

#### (1) 分野概要

当分野は、これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています.

このために、分野の教員や大学院生を含む全構成員が力を合わせて、全世代の人々が安心・安全に過ごせる「地域 包括ケアシステム」や「在宅ケアシステム」の構築に向けて、看護学研究者が果たせる役割の大きさは甚大である と考えています。

#### (2) 研究活動

分野名である「在宅ケア看護学」が表すように、当分野では「地域包括ケア」と「在宅看護」をキーワードとした幅広いテーマについて多彩な研究を精力的に進めています.

まず一つ目は、ケアの受け手に直接的に役立つテーマである、入退院支援、エンドオブライフケア、在宅緩和ケア、施設看取り、認知症ケア、レスパイトケア、治療後の在宅療養者のフレイル予防などの「個別ケアの発展」に貢献する研究.

二つ目は、ケア提供者自身にとって有用であり、ひいてはケアの受け手に間接的に役立つテーマとなる、医療介護連携、産官学民連携、在宅ケア管理、離職防止、スタッフ教育などの「ケア提供者、組織、地域のシステム的発展」につながる研究.

三つ目は、人口減少社会を見据えて、我々ケア提供者の人材の最大活用と限られた資源におけるケアの生産性向上を目指し、パーソナルヘルスレコードの活用やデータヘルスの推進が進むなか、医療介護レセプト情報、介護施設等で集積されているケア記録、在宅ケア領域で支払い請求上集積されている在宅ケア記録等の解析による看護の見える化や効果のエビデンス化に寄与するビッグデータを扱う研究.

四つ目は、科学技術・技術革新がヘルスケア業界に急速に導入される時代的背景のなか、看護の視点で行う、見守り機器や介護ロボットの導入・応用に繋がる研究、センシング機器等を活用した連続観察による効果的なケア追及を行うための看工連携研究やトランスレーショナルリサーチ.

以上のように、当研究室では、超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく"個別ケア"、"地域システム"、"ビッグデータ"、"科学技術"の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、社会的ニーズに看護が応えることを目指して、幅広い研究テーマを展開・追及していきます。

#### (3) 教育活動

#### 学部教育

2年生の在宅看護学 I では、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について学びます。

3年生の在宅看護学 II, 在宅看護学演習, 在宅看護学実習では, 施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み, 看護技術、他職種連携等の理論と実践, さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み, サービス提供体制, ケアマネジメントについて学びます. 演習では具体的な訪問看護技術, および看護の展開を学びます. 臨地実習においては, 訪問看護ステーションの実習のみならず, 地域包括支援センターにおけるケアマネジメント, 予防介護に関する活動の実際, および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めていきます.

4年生の総合実習および卒業研究では、4年間で学習した知識と技術を統合し、複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対し、主体的に看護実践できる力をつけていきます。また、看護の統合と実践実習で学習した多職種との連携、医療安全、管理的視点を踏まえ、在宅医療介護チームの中での看護師の役割を実践の中で学んでいきます。卒業研究では、実際の在宅療養者や地域住民、医療介護従事者からの調査データを用いて、これまで学習した知識や技術を俯瞰的に捉え、在宅療養者や地域住民、在宅医療介護従事者に役立つエビデンス構築を、体験を通して学びます。さらに看護研究の視点からも看護の理解を深め、将来、看護研究のリーダーを担う基礎力を身につけていきます。

#### 大学院教育

在宅ケア看護学特論 I では、地域包括ケアシステムの構築の重要性と実際の理解を深め、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の役割について考察を進めていきます.

在宅ケア看護学演習 I では、文献レビューを通して、超高齢人口減少社会における在宅看護・地域包括ケアシステムの在り方、及び在宅療養における科学技術・ビッグデータの活用に関する研究動向を捉えることを目的に行っています.

在宅ケア看護学特論 II では、在宅ケア看護学に関連する社会情勢の変化、諸制度および地域社会における看護提供の仕組み等を国内外の研究論文および実践の知見当により探求するとともに、在宅ケア看護の専門的看護実践の研究を計画し、学位論文作成につながる研究に取り組み、自立して研究できる能力を習得していきます。

#### (4) 教育方針

これから急速に進む超高齢 · 人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

#### (5) 臨床活動および学外活動

- 1. 介護及び医療レセプト分析による疾患並びに状態別の最適訪問看護提 供パッケージの提案と自治体担当者向けの訪問看護実態可視化ツールの開発(厚生労働省: 2020 年 04 月 2022 年 03 月)
- 2. 科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発(文部科学省/日本学術振興会: 2018 年 2020 年)
- 3. 工学技術を活用した環太平洋アジア地域における認知症家族介護者支援モデル開発(文部科学省/日本学術振興会)
- 4. 科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発(文部科学省/日本学術振興会)
- 5. 訪問看護と介護の連携促進のための慢性疾患高齢者向け早期生活マネジメント指針の開発(文部科学省/日本学術振興会)

- 6. 工学技術とケア情報を統合した在宅高齢者と家族と医療介護職向け看取り支援 IoT 開発(文部科学省/日本学術振興会)
- 7. 大阪府のレセプト特定検診一体型ビッグデータに基づく効率的な特定保健指導運用の提案(文部科学省/日本学術振興会)

#### (6) 臨床上の特色

複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対する統合的な看護実践が本分野の臨床上の特色である。また、多職種との連携、社会制度を理解した上での調整、医療安全等、管理的視点を在宅医療介護チームの中で発揮することも看護師の役割であることも特色である。超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく"個別ケア"、"地域システム"、"ビッグデータ"、"科学技術"の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、在宅看護臨床として、臨床的・学術的に社会的ニーズに応えることも求められる。

#### (7) 研究業績

#### [原著]

- 1. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Fukui Sakiko, Ishikawa Takako, Iwahara Yuka, Fujikawa Aya, Fujita Junko, Takahashi Kunihiko. Measuring well-being in older adults: Identifying an appropriate single-item questionnaire(和訳中) Geriatrics & Gerontology International. 2021.12; 21(12); 1131-1137
- 2. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Yoko Higami, Akarai Higuchi, Haruka Tanaka, Yuki Moriki, Momoe Utsumi, Miyae Yamakawa, Yuri Ito, Yutaka Hatano, Isseki Maeda, Sakiko Fukui. Nonwearable actigraphy to assess changes in motor activity before and after rescue analgesia in terminally ill patients with cancer: A pilot study. Int J Nurs Pract. 2021.10; e13019
- 3. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Haruka Tanaka, Sakiko Fukui, Isseki Maeda, Yutaka Hatano, Akari Higuchi, Yoko Higami, Miyae Yamakawa, Momoe Utsumi. The change over time of vital signs with consideration for opioid use in the last 2 weeks of life among cancer patients in a palliative care unit: Continuous measurement of vital signs using a non-wearable monitor. Cancer Med. 2021.10; 10(24); 8799-8807
- 4. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] Inagaki A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Yamamoto-Mitani N. Home-care nurses' community involvement activities and preference regarding the place for end-of-life period among single older adults: A cross-sectional study in Japan. Health & social care in the community. 2021.09; 29(5); 1584-1593
- 5. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Sakiko Fukui, Naoko Otsuki, Sumie Ikezaki, Hiroki Fukahori, Saori Irie. Provision and related factors of end-of-life care in elderly housing with care services in collaboration with home-visiting nurse agencies: a nationwide survey. BMC Palliat Care. 2021.09; 20(1); 151
- 6. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Naoko Otsuki, Ryohei Yamamoto, Yukihiro Sakaguchi, Kento Masukawa, Tatsuya Morita, Yoshiyuki Kizawa, Satoru Tsuneto, Yasuo Shima, Sakiko Fukui, Mitsunori Miyashita. Care needs level in long-term care insurance system and family caregivers' self-perceived time-dependent burden in patients with home palliative care for cancer: a cross-sectional study. Support Care Cancer. 2021.09; 30(2); 1587-1596
- 7. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Sakiko Fukui, Kasumi Ikuta, Isseki Maeda, Satoshi Hattori, Yutaka Hatano, Miyae Yamakawa, Momoe Utsumi, Yoko Higami, Haruka Tanaka, Akari Higuchi. Association between respiratory and heart rate fluctuations and death occurrence in dying cancer patients: continuous measurement with a non-wearable monitor. Support Care Cancer. 2021.07; 30(1); 77-86
- 8. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Sakiko Fukui, Etsuko Ohama, Satoshi Hattori. Environmental factors related to sleep latency among inpatients in rehabilitation wards according to functional independence measure cognitive scores. Int J Nurs Pract. 2021.05; e12964

- 9. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] Noguchi-Watanabe M, Yamamoto-Mitani N, Nagami Y, Eltaybani S, Inagaki A, Taniguchi Y. Homecare nurses' length of conversation and intention to remain at the workplace: A multilevel analysis. Journal of nursing management. 2021.05; 29(4); 721-730
- 10. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] Fukui C, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Naruse T, Kitamura S, Inagaki A, Takaoka M, Kobayashi H, Yasaka T, Yamamoto-Mitani N. Development of quality indicators for evaluating the quality of long-term care. Geriatrics & gerontology international. 2021.04; 21(4); 370-371
- 11. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Ishikawa Takako, Haseda Maho, Kondo Naoki, Kondo Katsunori, Fukui Sakiko. 日本人高齢者における最期を自宅で迎えることを希望することの予測因子 JAGES 横断研究 (Predictors of home being the preferred place of death among Japanese older people: JADES cross-sectional study) Geriatrics & Gerontology International. 2021.04; 21(4); 345-352
- 12. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Kasumi Ikuta, Isseki Maeda, Yutaka Hatano, Ichiro Mori, Sakiko Fukui. Feasibility and Clinical Usefulness of a Novel Nonwearable Sheet-Type Monitor (Nemuri SCAN): Prognostic Value of Increased Respiratory Rate in Actively Dying Patients Journal of Palliative Medicine. 2021.03; in press
- 13. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Takako Ishikawa, Maho Haseda, Naoki Kondo, Katsunori Kondo, Sakiko Fukui. Predictors of home being the preferred place of death among Japanese older people: JAGES cross-sectional study. Geriatr Gerontol Int. 2021.02; 21(4); 345-352
- 14. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] Sari DW, Minematsu T, Yoshida M, Noguchi-Watanabe M, Tomida S, Kitamura A, Abe M, Sanada H. Validity of skin blot examination for albumin and nerve growth factor  $\beta$  to detect itching of the skin in Indonesian older adults. Journal of tissue viability. 2021.02; 30(1); 42-50
- 15. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Yuki Moriki, Maho Haseda, Naoki Kondo, Toshiyuki Ojima, Katsunori Kondo, Sakiko Fukui. Factors Associated With Discussions Regarding Place of Death Preferences Among Older Japanese: A JAGES Cross-Sectional Study. Am J Hosp Palliat Care. 2021.01; 38(1); 54-61
- 16. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] Tomoko Omiya, Masami Kutsumi, Sakiko Fukui. Work, Leisure Time Activities, and Mental Health among Family Caregivers of the Elder People in Japan. Healthcare (Basel). 2021.01; 9(2);
- 17. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] Sari DW, Noguchi-Watanabe M, Sasaki S, Sahar J, Yamamoto-Mitani N. Estimation of sodium and potassium intakes assessed by two 24-hour urine collections in a city of Indonesia. The British journal of nutrition. 2021.01; 126(10); 1-12
- 18. [在宅ケア看護学: 大槻 奈緒子] Naoko Otsuki; Ryohei Yamamoto; Yukihiro Sakaguchi; Kento Masukawa; Tatsuya Morita; Yoshiyuki Kizawa; Satoru Tsuneto; Yasuo Shima; Sakiko Fukui; Mitsunori Miyashita. Care needs level in long-term care insurance system and family caregiver's self-perceived time-dependent burden in patients with home palliative care for cancer: A cross-sectional study Supportive Care in Cancer. 2021;
- 19. [在宅ケア看護学: 大槻 奈緒子] Sakiko Fukui, Naoko Otsuki, Sumie Ikezaki, Hiroki Fukahori, Saori Irie. Provision and Related Factors of End-of-Life Care in Elderly Housing with Care Services in Collaboration with Home-Visiting Nurse Agencies: A Nationwide Survey BMC Palliative Care. 2021;
- 1. [在宅ケア看護学:野口 麻衣子] 野口 麻衣子, 山本 則子, 稲垣 安沙, 沼田 華子, 山田 享介. 訪問看護事業所における看護実践に焦点を当てたケースカンファレンスの試行と効果 日本在宅看護学会誌. 2021.08; 10(1); 95-102
- 2. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 大槻奈緒子、生田花澄、福井小紀子. 放課後等デイサービスおよび児童 発達支援事業所における医療的ケア児受入の関連要因 日本看護科学会誌. 2021; in press
- 3. [在宅ケア看護学:大槻 奈緒子] 大槻奈緒子,生田花澄,福井小紀子. 放課後等デイサービスおよび児童 発達支援事業所における医療的ケア児受入の関連要因 日本看護科学会誌. 2021; 41; 29-36

#### [書籍等出版物]

- 1. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] 姉崎 沙緒里, 野口 麻衣子, 五十嵐 歩, 目 麻里子, 稲垣 安沙, 津野 陽子, 大森 純子, 山本 則子.. Social Community Nursing 機能【後編】 コミュニティケア. 日本看護協会出版会, 2021.04 (ISBN: 978-4-8180-2315-4)
- 2. [在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] 野口 麻衣子, 姉崎 沙緒里, 五十嵐 歩, 目 麻里子, 稲垣 安沙, 津野 陽子, 大森 純子, 山本 則子.. Social Community Nursing 機能【前編】 コミュニティケア. 日本看護協会出版会, 2021.03 (ISBN: 978-4-8180-2314-7)
- 3. [在宅ケア看護学:野口 麻衣子] 小林 弘美, 稲垣 安沙, 野口 麻衣子, 福井 千絵, 山本 則子.. 非がん患者 を有する在宅療養者における予定外入院の関連要因の検討 症例対照研究 医療の広場. 公益財団法人 政策医療振興財団, 2021.02

#### [講演·口頭発表等]

- 1. [在宅ケア看護学:野口 麻衣子] 野口 麻衣子. 在宅におけるケアの研究方法. 日本在宅医療連合学会大会 プログラム・講演抄録集 2021.11.01
- 2. [在宅ケア看護学:野口 麻衣子] 野口 麻衣子. 地域での看護実践強化のためにできること 地域での看護 職による多様な看護実践 Social Community Nurses に着目して. 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集 2021.11.01
- 3. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 福井小紀子. 専門科目 安全管理. 愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程 2021.07.30
- 4. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 福井小紀子. 看護職員管理者の相互研修一暮らしをつなげる看護職員のための研修一. 2021.07.13
- 5. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 福井小紀子. ヘルスケアシステム論 I. 2021 年度第 1 回認定看護管理者 教育課程 2021.06.01

- 1. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 東京大学 非常勤講師, 2016年04月01日 2022年03月31日
- 2. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 放送大学 非常勤講師, 2016年04月01日 2022年03月31日
- 3. [在宅ケア看護学: 内堀 真弓] お茶の水会看護同窓会 副会長, お茶の水会看護同窓会, 2018 年 05 月 19 日 現在
- 4. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 浜松医科大学 非常勤講師, 2020年04月01日 2022年03月31日
- 5. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 大阪大学 招へい教授, 2020年04月01日 2022年03月31日
- 6. [ 地域保健看護学: 津田 紫緒 ] 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020 年 04 月 08 日 現在
- 7. [ 在宅ケア看護学: 野口 麻衣子] 江戸川保健所業務継続のための応援派遣, 2021 年 02 月 01 日 現在
- 8. [在宅ケア看護学:福井 小紀子] 上智大学 非常勤講師, 2021年04月01日 2022年03月31日
- 9. [在宅ケア看護学:野口 麻衣子]ケーススタディで相互理解を深め、新たな医療環境を作り出そう、一般社団法人ピーペック、みんなでつくろう、これからの医療「with Heart プロジェクト」、2021年 08月 28日
- 10. [在宅ケア看護学:野口 麻衣子]多職種ミニレクチャー:在宅におけるケアの研究方法,一般社団法人日本在宅医療連合学会, 2021 年 11 月 27 日

# がんエンドオブライフケア看護学

### End-of-Life Care and Oncology Nursing

准教授 山﨑 智子

院生 伏見 真由

柳谷 利恵 髙橋 倫子 西塚 祐樹 片岡 綾華

佐藤 由紀子 劉 菲

### (1) 分野概要

本分野では、がん患者を中心に、診断・治療初期、外来治療継続の時期、人生の終末の時期にある患者や家族の意思決定、症状緩和や苦悩についての体験を明らかにすること、さらには残された遺族の体験や困難を明らかにし、看護支援の必要性や支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元によるがんエンドオブライフケア看護学の構築を目指している。

### (2) 研究活動

本分野では、がんの罹患から終末期に至るまでの様々な病期にある患者 · 家族の苦悩を理解し、自身の望む生き方がかなえられる意思決定支援や患者 · 家族の力を高める看護支援や遺される人々への苦悩に寄り添い、生き抜く力を支えるケアについても探求している。

- 1. がん再発期にある患者の希望を支える看護支援の開発
- 2. 壮年期のがん患者とその子供を支える看護支援
- 3. がんの再発を繰り返す患者のレジリエンスを支える看護支援の開発
- 4. 治癒の望めない進行がん患者と家族の終末期を支える看護支援
- 5. がん患者との死別を体験した遺族へのグリーフケア
- 6. 患者と死別した看護師のグリーフを支援するプログラムの開発

### (3) 教育活動

学部教育においては、4年生の緩和ケア看護学の講義で、病院での医療・看護のみならず、人々が暮らしている自宅を療養の場としてケアを展開することへの理解を深める。そのために、在宅ホスピスを中心に、終末期にある人々と家族の特徴を理解し、QOLの向上を目指した看護について、自宅での症状コントロールや療養の体制作り、看取りおよびその後の家族に対する看護の理解を目指している。

また遺族へのグリーフケアや看護師のグリーフや共感疲労についても理解を深め看護師自身のセルフケアについても教授する。

臨床看護開発学講座 在宅がんエンドオブライフケア看護学

大学院教育では、がん看護の専門性の追求と発展の教育研究に加え、高度実践者としてのがん専門看護師 (CNS)教育を行っている。

5年一貫制博士課程の利点をいかして、5年間の中で自身の追求したい研究テーマに合わせて、柔軟に実習を組み込みながら研究を進めることができるようにしている。

### (4) 教育方針

常に一人の人として、よく生き、よく死ぬことについて考えを深め、死生観を醸成する。それらを基盤にして、 人生の危機にある他者を援助する看護について考えることが出来る実践者、研究者を育成する。

さらにコミュニティーの中においても、病気を持っていても持っていなくても、人としてよく生き、よく死のうとする人々とともに考え、生と死について考えを深めるための手助けをする役割を果たす人になることを目指す。

### (5) 臨床活動および学外活動

がんを罹患した人々が、自身の気持ちや体験を発信するコミュニティーに参加し、体験を書き起こし記録するなどの活動を支えている。

地域の中でがんに罹患した人々、自宅で終末期を過ごす人々を支える訪問看護の現場において看護活動を行っている。

コミュニティーにおいて、がんに罹患した患者・家族・遺族、そのような体験はないが自身の死やがんについて考える人々が集う、「がん哲学外来・聖橋プラムカフェ」を大学院生が主催し、分かち合いの場の提供と支援を行っている。

家族に限らず、愛する対象を亡くし遺された人々を対象として、GCC 認定グリーフカウンセラーとしてカウンセリングを行っている。

### (6) 臨床上の特色

実習や研究を行う場は、がんに罹患した患者・家族の存在するところ、どこにおいても看護の役割について考える場となりうる。

病院施設、在宅療養の場のみならず、コミュニティにおいても、患者・家族がいかに自分らしく生きるか、その ためにどの様な人的・物的資源を活用して支援をしていけるかを考えていく。

### (7) 研究業績

### [原著]

1. Rika Tamura, Tomoko Yamazaki, and Mayumi Uchibori. I'll Try My Best to be a Dad: The Experiences of Japanese Fathers with Cancer Global Qualitative Nursing Research. 2021.01; 8; 1-15

### [社会貢献活動]

- 1. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020年04月08日 現在
- 2. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021年08月18日-現在

# 国際看護開発学

### **International Nursing Development**

教授 近藤 暁子

非常勤講師 Ann L. Eckhardt 非常勤講師 Mabel C. Ezeonwu

非常勤講師 Vico Chiang 非常勤講師 新津 晃右 非常勤講師 駒形 朋子 非常勤講師 森山 潤

大学院生 Abuliezi Renaguli

大学院生 Hua Jing 大学院生 Quian Huilin 大学院生 Wang Congcong

大学院生 Wen Jieru 大学院生 平井 寛季 大学院生 Piao Meihui

大学院生 Ganchuluun Sambuu

研究生Ying Zhexi研究生Zeng Wanying研究生ZhouYao

研究生 Adimah Sandra Enyonam

### (1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主に、大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

### (2) 研究活動

主に成人~高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探求している。研究テーマの1つは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行った。その結果日本人の方が有意にコントロール感が低かったが、日本人もコントロール感と健康関連QOLの相関が認められた。次の研究として、大学生・大学院生を対象とし、聖路加国際大学、昭和大学、東京医科大学、米国ワシントン大学と共同し「新型コロナウイルス流行下での健康行動とコントロール感の関係の日米比較」を実施している。今後さらにインドネシアの大学とも共同研究を予定している。その他看護学生を対象とした異文化や英語教育についての研究も実施している。

### (3) 教育活動

### 1)学部教育

本分野では学部4年生を対象として、「国際保健看護学」および「総合実習 I」を担当している。国際保健看護

学では、諸外国の医療と看護の現状を理解し、SDG sをもとに人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養う。遠隔講義システムを利用し香港理工大学 Vico Chiang 准教授および米国テキサス大学 Ann Eckhardt 准教授の講義を英語で実施している。「総合実習 I」では 4 年間の学びを統合し、複数受け持ちや外国人医療、医療チームでの協力、について学ぶ。学部 3 年生に対しては「卒業論文 I」を担当し、研究手法の基本や論文のクリティークを行っている。

さらに学部24年生を対象とした「実践看護英語」を自由選択科目として開講している。一部はワシントン大学の学生とオンラインを使用して共通講義とし、ネイティブスピーカーの講師や留学生とともに異文化看護について英語で学ぶ。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行っている。2022年度はインドネシアの大学と共同講義を行う予定である。

また「卒業論文 II」では留学生を対象とした日本での病院受診時の体験調査、病院の看護師を対象とした外国人患者対応に必要な研修内容、看護学生の英語学習のニーズについて調査した。2017年に調査した留学生を対象とした日本での病院受診時の体験は 2021年に海外の英文誌に掲載した。また、2015年のネパールでの地震後災害救援活動にあたった看護師の方 12名にインタビューを行い、看護師の活動や今後の課題についてまとめた学生は2017年世界看護科学学会で口演し、2019年に英文誌に掲載した。

### 2) 大学院教育

共通科目では「国際看護研究方法論」を担当している。研究計画書の作成方法や論文のクリティークなどを英語による講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。学生は研究方法を学ぶことのみならず、国際学会でいつでも発表できるように準備している。「国際看護開発学特論」ではシステマティックレビューの方法を学んでいる。国際看護開発学特論で学んだ学生はシステマティックレビュー論文を 2021 年に International Nursing Review に発表した。

### (4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を発揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人期から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

### (5) 臨床活動および学外活動

2021 年 9 月 4 日に日本国際看護学会第 5 回学術集会をオンラインで実施しました。 https://kokusaikango2021.wixsite.com/jsin

### (6) 研究業績

### [原著]

- 1. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Kosuke Niitsu, Mabel C Ezeonwu. Perceived Control, Preventative Health Behaviors, and the Mental Health of Nursing Students during the COVID-19 Pandemic: A Cross-sectional Study INQUIRY: The Journal of Health Care Organization, Provision, and Financing. 2021.12; 58; 1-11
- Akiko Kondo, Chika Kambayashi, Mami Koizumi, Akane Futami. Factors related to difficulty in caring for foreign patients among nurses in Japanese hospitals Journal of International Health. 2021.08; 36(2); 39-47
- 3. Masumi Soneta, Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, and Aya Kimura. International Students' Experience With Health Care in Japan SAGE Open. 2021.04; April-June; 1-14
- 4. Akiko Kondo, Ann L. Eckhardt, Renaguli Abuliezi, Tomomi Oki, Amane Otaki. A Pilot Study on Perceived Control and Health Related Quality of Life in Patients with Acute Coronary Syndrome in Japan and the United States Journal of Japanese Society for International Nursing . 2021.03; 4(2); 35-46

- 5. Akiko Kondo, Tomomi Oki, Amane Otaki, Renaguli Abuliezi, Ann L. Eckhardt. Factors related to perceived control and health related quality of life of patients after acute coronary syndrome during admission and after discharge Japan Journal of Nursing Science. 2021.01;
- 6. Kosuke Niitsu, Akiko Kondo, Jing Hua, & Natalia Dyba . A case report of Collaborative Online International Learning (COIL) in nursing and health studies between the United States and Japan Nursing Education Perspectives. 2021; (in press)

### [総説]

1. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Huilin Qian. The experiences of foreign - educated nurses in Japan: a systematic review International Nursing Review. 2021.03; 68(1); 99-107

### [講演·口頭発表等]

- 1. Qian Huilin, Tomomi Oki, Ann L Eckhardt, Akiko Kondo . Resilience and end of life care attitudes of critical care nurses: using Connor-Davidson Resilience Scale. The 41st Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2021.12.04 Online
- 2. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Kosuke Niitsu, Tomomi Oki, Mabel C Ezeonw. Covid-19 preventive health behavior engagement between Japanese and international graduate students in Japan. The 41st Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2021.12.04 Online
- 3. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Kosuke Niitsu, Mabel C Ezeonwu. The Relationship Between Perceived Control and Health Behaviors of Nursing Students during COVID-19 pandemic. The 41st Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2021.12.04 Online
- 4. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Kosuke Niitsu, Erika Ota, Mabel C Ezeonwu. Covid-19 preventive health behavior among Japanese and international graduate students in Japan and US graduate students. The 36th Congress of Japan Association for International Health 2021.11.27 Online
- 5. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kosuke Niitsu, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Erika Ota, Mabel C Ezeonwu. Comparison of perceived control and preventive health behavior between Japanese and US nursing students under COVID-19 pandemic. The 36th Congress of Japan Association for International Health 2021.11.27 Online
- 6. Jing Hua & Akiko Kondo. Factors Relating to Participation in Study Abroad Program at a University Among Japanese Nursing Students. ICN Congress 2021.11.02 UAE (online)
- 7. Akiko Kondo, Tomomi Oki, Amane Otaki, Renaguli Abuliezi, Ann L. Eckhardt. Factors related to perceived control and health related quality of life of patients after acute coronary syndrome during admission and after discharge. ICN Congress 2021.11.02 UAE (online)
- 8. Jing Hua, Akiko Kondo. Factors Relating to Participation in Study Abroad Program at a University Among Japanese Nursing Students . ICN Congress 2021.11.02 online
- 9. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Kosuke Niitsu, Mabel C Ezeonwu. Factors related to perceived control among graduate students in Japan. The 5th Annual Meeting of Japanese Society for International Nursing 2021.09.04 Tokyo (online)
- Jing Hua, Akiko Kondo, Janelle Moross. Changes in intercultural sensitivity of nursing students through international education. The 5th Annual Meeting of Japanese Society for International Nursing 2021.09.04 Tokyo (online)
- 11. Kosuke Niitsu, Akiko Kondo, & Renaguli Abuliezi. The Effects of Collaborative Online International Learning (COIL) on Intercultural Sensitivity. The 5th Annual Meeting of Japanese Society for International Nursing 2021.09.04 Tokyo (Web)
- 12. 華セイ, 王聡聡, ガンチュルーン・サンブー.. 医療現場の多文化共生 外国人看護師と一緒に働く. 日本国際 看護学会 2021.09.04 Tokyo (online)
- 13. Jing Hua, Akiko Kondo, Janelle Moross. Changes in intercultural sensitivity of nursing students through international education. The 5th Annual Meeting of Japanese Society for International Nursing 2021.09.04

- 1. 大木友美、近藤暁子. クリティカルケア看護師の二次元レジリエンス要因とターミナルケア態度の関連. 第41回日本看護科学学会学術集会 2021.12.04 オンライン
- 2. 大木友美、近藤暁子. クリティカルケア看護師の経験年数とターミナルケア態度との関係. 第 23 回日本看護 医療学会学術集会 2021.09.25 Web
- 3. 大木友美、近藤暁子. クリティカルケア看護師の SOC(Sense of Coherence)とレジリエンスの関連. 第 23 回日本看護医療学会学術集会 2021.09.25 Web
- 4. 近藤暁子, アブレズ・レナグリ, 成瀬和子, 大木友美. 新型コロナウイルス感染症流行が看護学生に与えた影響とコントロール感との関連. 第 23 回日本看護医療学会学術集会 2021.09.25 Web
- 5. 近藤暁子, 新津晃右. コロナ禍における研究および教育について. 日本国際看護学会 第5回学術集会 2021.09.04 東京 (online)
- 6. 華セイ, 王聡聡, ガンチュルーン・サンブー. 医療現場の多文化共生 外国人看護師と一緒に働く. 日本国際 看護学会 第5回学術集会 2021.09.04 東京 (online)

### [社会貢献活動]

1. 日本国際看護学会第 5 回学術集会大会長, 日本国際看護学会, 2021 年 02 月 01 日 - 2021 年 10 月 30 日

# 高齢社会看護システム管理学分野

### Department of Gerontorogical Nursing and Healthcare Systems Management

教授 緒方 泰子 准教授 佐々木 美樹 助教 湯本 淑江

特任講師 前田 留美(看護キャリアパスウェイ教育研究センター) 特任助教 藤波 景子(看護キャリアパスウェイ教育研究センター) 特任研究員 丹野 春香(看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

大学院生 博士課程(5年一貫制)

森 陽子

山縣 千尋

西川 裕理 (2021.9.16 修了)

長井 聡子

岩崎 弓子

高田 聖果

木田 亮平 (2021.3.31 修了)

伊藤 絢乃

笹井 佳奈

佐藤 潤

前田 優貴乃

大学院生 博士課程(後期)

石井 典子

研究生

山口さおり

事務補佐員 神内 祐子 (2021.7.31 まで)

事務補佐員 小曽根裕美 (2021.8.1 から)

事務補佐員 尾張 景子(看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

### (1) 分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法(個へのアプローチ)に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか(社会システムへのアプローチ)といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応えていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護システム管理学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人財養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

### (2) 研究活動

- 1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
- 2. 看護ケアの質に関する研究
- 3. 看護管理学に関する研究
- 4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究 など

### (3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から 老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護システム管理学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

### (4) 研究業績

### [原著]

- 1. Seira Takada, Yasuko Ogata, Yoshie Yumoto, Masaomi Ikeda. Implementation of an Advance Care Planning Inventory and Its Possible Effect on Quality of Dying: A Nationwide Cross-Sectional Study in Group Homes for Persons with Dementia in Japan Healthcare. 2021.12;
- 2. Ayano Ito, Kana Sato, Yoshie Yumoto, Miki Sasaki, Yasuko Ogata. A concept analysis of psychological safety: Further understanding for application to health care. Nurs Open. 2021.10;
- 3. Ogata Yasuko, Sato Kana, Kodama Yoshimi, Morioka Noriko, Taketomi Kikuko, Yonekura Yuki, Katsuyama Kimiko, Tanaka Sachiko, Nagano Midori, Ito Yoichi M., Kanda Katsuya. Work environment for hospital nurses in Japan: The relationships between nurses' perceptions of their work environment and nursing outcomes NURSING OPEN. 2021.09; 8(5); 2470-2487
- 4. Chihiro Yamagata, Sachiko Matsumoto, Mitsunori Miyashita, Yusuke Kanno, Atsuko Taguchi, Kana Sato, Hiroki Fukahori. Preliminary Effect and Acceptability of an Intervention to Improve End-of-Life Care in Long-Term-Care Facilities: A Feasibility Study. Healthcare (Basel). 2021.09; 9(9);
- Ogata Yasuko, Fujinami Keiko, Itoh Sakiko, Kashiwagi Masayo, Lapreziosa Nobuko, Yonekura Yuki.
   Developing the nursing practice environment scale for home health care: A trial study in Japan NURSING OPEN. 2021.07; 8(6); 3593-3605
- Nishikawa Yuri, Sato Kana, Mizuno Atsushi, Sasano Tetsuo, Yoshikawa Shunji, Ogata Yasuko. Realization and personalization by facing fatality: A grounded theory of developing the view of dying in people with heart failure JOURNAL OF ADVANCED NURSING. 2021.06; 77(6); 2796-2806
- 7. Noriko Morioka, Mutsuko Moriwaki, Jun Tomio, Kiyohide Fushimi, Yasuko Ogata. Dementia and patient outcomes after hip surgery in older patients: A retrospective observational study using nationwide administrative data in Japan. PLoS One. 2021.04; 16(4); e0249364
- 8. Maeda Rumi, Obama Kyoko, Tomioka Akiko, Akagawa Junko, Maru Mitsue. A survey of accuracy of nurses' clinical judgement of cutaneous graft-versus-host disease in Japan NURSING OPEN. 2021.03; 8(2); 646-655
- 9. Piao X, Tsugawa S, Takemura Y, Ichikawa N, Kida R, Kunie K, Managi S. Disability Weights Measurement for 17 Diseases in Japan: A Survey Based on Medical Professionals Economic Analysis and Policy. 2021.02;

- 10. Itoh Sakiko, Mori Takahiro, Jeon Boyoung, Morioka Noriko, Ito Tomoko, Jin Xueying, Ogata Yasuko, Tamiya Nanako. Comparison of progression of care-need levels among long-term care recipients with and without advanced care management in a rural municipality of Japan: A population-based observational study INTERNATIONAL JOURNAL OF NURSING STUDIES. 2021.01; 113;
- 1. 石川 紀子, 前田 留美, 堂前 有香, 齊藤 千晶. 小児系の病棟に配属異動となった看護師が経験する困難と学習 ニーズ、教育・支援体制の実態 日本看護学会論文集: 看護管理・看護教育. 2021.08; 51 回; 235-238
- 2. 前田 優貴乃, 勝野 とわ子. 急性期病棟における認知障害高齢者に対するパーソン·センタード·ケアをめざした看護実践に関連する要因 老年看護学. 2021.01; 25(2); 71-79

### [書籍等出版物]

- 1. JCCG 長期フォローアップ委員会長期フォローアップガイドライン作成ワーキンググループ. 小児がん治療後の長期フォローアップガイド. クリニコ出版, 2021.09 (ISBN: 978-4-910396-13-2)
- 2. 伊藤 絢乃. ヘルスケア領域における心理的安全性の概念分析 海外の文献レビューの結果から. 株式会社 医学書院. 2021.04
- 3. 湯本 淑江, 伊藤 絢乃, 佐藤 可奈, 緒方 泰子. Psychological Safety: The History, Renaissance, and Future of an Interpersonal Construct (心理的安全性:対人関係構築の歴史, 復興, 未来). 株式会社 医学書院, 2021.04

### [総説]

- 1. 横山 玲, 栗原 博之, 伊藤 絢乃. 「介護事故防止チェックリスト(案)」の策定に関する検討 厚生労働科学研 究費補助金 長寿科学政策研究事業 在宅 · 介護施設等における医療的ケアに関連する事故予防のための研究 (H30-長寿-一般-004) 分担研究報告書. 2021.05;
- 2. Nishikawa Y, Fukahori H, Mizuno A, Kwong JSW. Cochrane corner: advance care planning for adults with heart failure Heart BMJ. 2021.02;
- 1. 前田 留美. 【シミュレーションと病院建築】看護継続教育におけるシミュレーション教育 病院設備. 2021.10; 63(4); 12-15
- 2. 坂口 美佐, 後 信, 伊藤 絢乃. 「介護事故情報収集システム (仮称)」の収集フォーマットを用いた事故情報収集の試行 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学政策研究事業 在宅・介護施設等における医療的ケアに関連する事故予防のための研究 (H30-長寿-一般-004) 分担研究報告書. 2021.05;
- 3. 藤波 景子, 佐々木 美樹, 緒方 泰子. 【心理的安全性 個々の強みを生かし, 変化への適応力が高いチームをつくる】新人看護師が率直に意見や疑問を言える心理的に安全な環境とは 2年目看護師のインタビューから看護管理. 2021.05; 31(5); 402-407
- 4. 緒方 泰子. 【心理的安全性 個々の強みを生かし, 変化への適応力が高いチームをつくる】看護管理者にとっての心理的安全性の意義, 活用可能性と課題 看護管理. 2021.05; 31(5); 388-391
- 5. 木田亮平, 武村雪絵. 看護職員の勤務環境改善に向けた各医療施設の取り組み:複数事例研究 日本看護管理 学会誌. 2021:

### [講演·口頭発表等]

- 1. 西川裕理. 人生の最終段階のイメージをもとに心不全患者への ACP を考える. 第 11 回日本看護評価学会学 術集会 2021.08.21
- Satoko NAGAI, Yasuko OGATA, Takeshi YAMAMOTO. The structure of Antecedent Factors for Work Engagement for nurses in Japan: Reliability and Validity. American Psychological Association 2021 Virtual Convention 2021.08.13
- 3. Kana Sasai, Yasuko Ogata, Yoshie Yumoto and W. George Kernohna . OUTCOMES OF INTERGENERATIONAL PROGRAMS BETWEEN INSTITUTIONALIZED OLDER PEOPLE AND CHILDREN: A SCOPING REVIEW. 24TH EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS 2021.04.15 Philippines Web 開催
- 1. 髙田 聖果, 緒方 泰子, 湯本 淑江, ラプレツィオーサ 伸子 . 日本語版 The Quality of Dying in Long-Term Care(QOD-LTC) の開発. 第 21 回東邦大学看護学会学術集会 2021.12.18 東京

- 2. 前田 留美. オンライン授業のベストプラクティス. 第 41 回日本看護科学学会学術集会 2021.12.04 オンライン開催
- 3. 佐々木美樹, 緒方康子, 藤波景子, 戸ケ里泰典. 看護師長によるエンパワリング行動とワーク · エンゲイジメント、心理的エンパワーメントの関係. 第 59 回日本医療 · 病院管理学会学術総会 2021.10.30 東京
- 4. 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 藤波 景子, 佐藤 可奈, 戸ヶ里 泰典. マグネット病院特性と看護職者の首尾一貫感覚 (SOC) との関連 経験年数に着目した検討. 日本医療・病院管理学会誌 2021.10.01
- 5. 岩崎 孝子, 高 紋子, 川原 美紀, 原沢 のぞみ, 山縣 千尋, 長江 弘子, 守屋 治代, 池田 真理. 働く世代のアドバンス・ケア・プランニング (ACP) の実践状況とその関連要因. 日本エンドオブライフケア学会誌 2021.09.01
- 6. 高 紋子, 原沢 のぞみ, 岩崎 孝子, 山縣 千尋, 川原 美紀, 守屋 治代, 池田 真理, 長江 弘子. 地域における多職種が共に学ぶアドバンス・ケア・プランニング (ACP) 教育プログラム Basic レベルの評価. 日本エンドオブライフケア学会誌 2021.09.01
- 7. 原沢 のぞみ, 岩崎 孝子, 高 紋子, 山縣 千尋, 川原 美紀, 守屋 治代, 池田 真理, 長江 弘子. 地域における多職種が共に学ぶアドバンス・ケア・プランニング (ACP) 教育プログラム First レベルの評価. 日本エンドオブライフケア学会誌 2021.09.01
- 8. 山縣 千尋, 原沢 のぞみ, 岩崎 孝子, 高 紋子, 川原 美紀, 守屋 治代, 池田 真理, 長江 弘子. 地域における多職種が共に学ぶアドバンス・ケア・プランニング (ACP) 教育プログラム Second レベルの評価. 日本エンドオブライフケア学会誌 2021.09.01
- 9. 前田留美, 松田美智代, 藤波景子, 緒方泰子. 修士課程修了者の臨床での活用と求められる管理者からの支援 —修士課程修了者の立場から・看護管理者の立場から考える. 第 25 回日本看護管理学会学術集会 2021.08.29 横浜, オンライン開催
- 10. 高木慶子, 湯本淑江, 廣山奈津子, 西川裕理, 笹井佳奈, 緒方泰子. 認知症高齢者への観察式疼痛評価ツールの臨床における"使いやすさ"の文献検討. 日本老年看護学会 第 26 回学術集会 2021.06.11 Web 開催
- 11. 大塚咲紀,廣山奈津子,湯本淑江,佐々木美樹,藤波景子,伊藤絢乃,緒方泰子. The Person-centered Care Assessment Tool (P-CAT) 日本語版の信頼性・妥当性の検討 ー特別養護老人ホームを対象に一. 日本老年看護学会 第 26 回学術集会 2021.06.11 Web 開催
- 12. 増田梨夏, 廣山奈津子, 西川裕理, 湯本淑江, 緒方泰子. 高齢者の最期の時の緊急搬送の現状と最期の穏やかさとそれを支える職員による創意工夫 -特別養護老人ホームの職員を対象とした郵送調査-. 日本老年看護学会 第 26 回学術集会 2021.06.11 Web 開催
- 13. 有薗珠未, 山下直美, 梶谷真紀子, 藤波景子, 前田留美. ICU における急変時対応能力の向上と若手リーダーの役割能力向上を目的としたシミュレーション研修への取り組み. 第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 2021.02.28 オンライン開催

### [Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD 教材 日本語版監修(共著) 第 1 巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第 2 巻 学童/思春期、青年期、教材、2010 年 04 月 - 現在

### [受賞]

1. 2020年度度東京医科歯科大学医学研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2021年02月

### [その他業績]

- 1. (前田) 第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 座長, 2021 年 02 月 第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 「バーチャル教育・継続教育」セッションで、 座長を務めた。
- 2. 【インタビュー】 心理的安全性を基盤とした、トップマネジャーたちの組織を超えた学習者コミュニティ、2021 年 05 月

雑誌「看護管理」31巻5号, p408-412, 医学書院に掲載

[話し手] 小河陽子/髙丸賀子/檜垣美香子

[聞き手] 佐々木美樹/藤波景子/緒方泰子

### [社会貢献活動]

- 1. 日本医療・病院管理学会評議員、理事(緒方)
- 2. 日本医療・病院管理学会事業委員会委員長(緒方)
- 3. 日本医療・病院管理学会編集委員会委員(緒方),2007年05月29日-現在
- 4. 日本看護管理学会評議員(緒方), 2019年04月01日-現在
- 5. 日本看護管理学会編集委員会委員(緒方),2019年04月01日-現在
- 6. 日本看護評価学会編集委員会委員(緒方),2019年04月01日-現在
- 7. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長(緒方)
- 8. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師(緒方)
- 9. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師(緒方), 2018年 04月 01日-現在
- 10. 公立大学法人東京都立大学非常勤講師(緒方),2007年04月01日-現在
- 11. 東京慈恵会医科大学非常勤講師(緒方)
- 12. 日本医療・病院管理学会執行部幹事(佐々木美樹),2020年05月-現在
- 13. 日本看護評価学会学術集会実行委員(佐々木美樹), 2016年03月-現在
- 14. 日本看護評価学会誌編集委員会委員(湯本),2016年03月01日-現在
- 15. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (湯本), 2021年 08月 18日-現在
- 16. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員(前田), 2015 年 04 月 01 日-現在
- 17. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員(前田),2016 年 08 月 01 日-現在
- 18. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員(前田),2017年01月01日-現在
- 19. 社)日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員(前田),2018 年 11 月 01 日-現在
- 20. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (藤波), 2014年03月14日-現在
- 21. 文京保健所業務継続のための応援派遣(藤波), 2020 年 04 月 08 日-現在

# 災害・クリティカルケア看護学分野

### Department of Disaster and Critical Care Nursing

教 授 佐々木 吉子 准教授 今津 陽子 助 教 野口 綾子(4月から) 特任研究員 田中 加苗(3月まで) 技術補佐員 森 朱輝(5月から) 事務補佐員 岡田 久美子

大学院生(博士5年一貫制) <共同災害看護学専攻> 菅原 千賀子(3月まで) 谷本 美保子(3月まで) 古屋(友藤) 裕美(3月まで) 小曽根 京子 鴨田 玲子 鐘ヶ江 紗里 藤村 麻衣子 <災害・クリティカルケア看護学分野> 冨田 亜沙子(4月から)

家持 縁(4月から)

### (1) 分野概要

当分野は、2014年4月に、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」として、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学による共同教育課程(5年一貫制博士課程)が開設され、本学の「共同災害看護学専攻」として創設された。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる災害看護のグローバルリーダーを養成することを目標としてきた。2021年3月末までに5大学で52名が入学し、18名が修了して、教育や実践の現場で活躍している。

文科省事業の終了に伴い、2019年度の入学者を最後に同プログラムは学生募集を停止し、2021年度からは、新たに看護先進科学専攻の「災害・クリティカルケア看護学分野」として改組された。5大学災害看護コンソーシアムを組織し、災害看護グローバルリーダーの養成を継承するとともに、クリティカルケア看護の教育・研究にも携わり、日本看護系大学協議会より、クリティカルケア看護の高度実践看護師教育課程としての認定を受け、コースを開講しており、それぞれの領域における高度な実践力、研究力を備えた人材の育成に努めている。

### (2) 研究活動

「共同災害看護学専攻」「災害・クリティカルケア看護学分野」では、以下の研究に取り組んでいる。

- 1. 災害看護:
- . 災害急性期における看護支援に関する研究
- . 災害時要配慮者への災害の備えの支援に関する研究
- . がん患者と家族の災害への備えに関する研究
- . 大災害を体験した人々の経験の意味の探究

先導的看護システム開発学講座 災害・クリティカルケア看護学

- ・大規模災害時の帰宅困難者対策
- ・臨床看護師の CBRNE 災害看護対応のための教材開発

### 2. クリティカルケア看護:

- ・ 外傷、重篤疾患の急激な発症や悪化、高侵襲治療により心身の危機的状況にある患者、家族の体験に関する研究
- ・ 重症で意思疎通が困難な患者の看護ニーズの探究とケアに関する研究
- · COVID-19 の重症患者ケアに関する研究
- ·一般病棟患者の重症化を予防するための Rapid Response System と Early Warning System に関する研究
- · PICS、PICS-F に関する研究

### (3) 教育活動

学部教育では、医学部保健衛生学科看護学専攻1年次後期の「看護の統合と実践I」、4年次前期の「看護の統合と実践II」、「看護の統合と実践実習」を担当している。看護の統合と実践Iでは、看護専門職に必要とされる知識・技術・態度について学生自らが考え、看護観を育み、短期的、長期的な自身の学修およびキャリアプランについて検討することを目的とし様々な看護職からの講義やディスカッションを通して学んでいる。4年次の看護の統合と実践IIでは、専門職に必要とされる知識・技術・態度について、3年次までの学修内容に看護倫理やマネジメントの視点を含めて熟考・統合し、看護観を発展させ、短期的、長期的な自身のキャリアプランを明確にし、さらに卒後数年間のアクションプランを検討することを目的とし、看護倫理、看護マネジメント、医療制度・経済の専門家から講義を受けて知識を深めるとともに、組織において多職種と連携しながら看護が果たす役割について考察する。さらに、看護の統合と実践実習では、病院機能全体において看護職が果たす役割を総合的な体験・実践を通して理解することを目的とし、既習の知識や技術を基盤として、現場の看護職に求められる知識・技術・態度についてあらためて考察し、学生自らの課題を見出し、総合的な看護実践能力を高めている。

大学院では、「共同災害看護学専攻」および「看護先進科学専攻」において、災害看護グローバルリーダー(DNGL)を志す学生に対して、求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育研究者を養成している。また、クリティカルケア看護の卓越した実践者、あるいは教育・研究者を志す学生に対しては、危機的状態にある対象の顕在、潜在する問題や看護支援ニーズを読み取り、的確に対応し解決できる人材を養成するため、「急性・重症患者看護高度実践看護師」の教育コースを開講している。

### (4) 教育方針

学部教育では、看護専門職に求められる知識・技術・態度、看護観について学生自身が4年間の学修を通して育み、既習の知識や技術を基盤とした総合的な臨床実践能力を有する実践者を養成することを目標としている。最終学年である4年次生の2科目では、既習の知識・技術を基に総合的な臨床実践能力を養成するため、シミュレーション教育、実習を配置する。

大学院教育では、修了後は災害看護もしくはクリティカルケア看護の領域で、実践者もしくは教育研究者として自立し、国際社会でも活躍できる高いコミュニケーション力を携え、リーダーシップを発揮することのできる人材を養成することを目標としている。そのため、学生の主体的な学修や研究への取り組みを重視するとともに、多様な学びの機会を支援する。

### (5) 臨床活動および学外活動

### 1. 災害看護

様々な災害へ対応できる能力を養うため、先駆的に被ばく医療の教育・研究に携わっている弘前大学との交流や、 災害看護コンソーシアムを構成する大学間の交流をはかっている。また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、 東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。

### 2. クリティカルケア看護

大学病院の集中治療部、ER センターとの交流や、臨床課題に関する共同研究を行っている。2021 年度は学内のコラボ企画に採択された。

### (6) 研究業績

### [原著]

- 1. Suzuki K, Ochiai R, Opiyo RO, Tokunaga Y, Imazu Y, Watabe S. Gender differences in HIV testing service visits and its related factors among adults: a cross-sectional study in Homa Bay, Kenya. The Pan African medical journal. 2021; 40; 217
- 1. 田中加苗, 佐々木吉子. 阪神・淡路大震災の被災経験がある人として生きることの意味 —学童後期に被災後 医療的介入を受けなかった人々を対象として— 日本看護科学会誌. 2021.12; 41; 494-502
- 2. 山勢善江, 山勢博彰, 明石惠子, 淺香えみ子, 木澤晃代, 剣持功, 佐々木吉子, 佐藤憲明, 芝田里花, 菅原美樹, 中村美鈴, 箱崎恵理, 増山純二, 三上剛人, 藤原正恵, 森田孝子. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する救急看護の実態と課題 日本救急看護学会雑誌. 2021.03; 23; 37-47

### [書籍等出版物]

- 1. 佐々木吉子. 第2章クリティカルケア看護の基盤になる理論と看護展開(益田美津美編. 経過別成人看護学1 急性期看護: クリティカルケア) . メヂカルフレンド社, 2021.12 (ISBN: 978-4-8392-3385-3)
- 2. 佐々木吉子. 看護系学会における災害対応 · 対策の取り組み, 東日本大震災からの十年とこれから. 防災学術連携体, 2021.01

### [総説]

- 1. Unoki T, Sakuramoto H, Sato R, Ouchi A, Kuribara T, Furumaya T, Tatsuno J, Wakabayashi Y, Tado A, Hashimoto N, Inagaki N, Sasaki Y. Adverse Effects of Personal Protective Equipment Among Intensive Care Unit Healthcare Professionals During the COVID-19 Pandemic: A Scoping Review SAGE Open Nursing. 2021.05; 6; 1-14
- 1. 佐々木吉子. 災害支援ナースの 10 年 救急医学. 2021.03; 45(3); 296-301

### [講演·口頭発表等]

- 1. Imazu Y, Kanno Y, Inoue T, Ookoso R, Iwai N, Watanabe M.. RELATIONSHIP BETWEEN DISASTER PREPAREDNESS AND DISASTER EXPERIENCE IN DESIGNATED CANCER HOSPITALS IN JAPAN. International conference in Cancer Nursing 2021 2021.02.02 Virtual
- 1. 菅原千賀子, 佐々木吉子. 東日本大震災における被災地自治体職員の体験の理解. 第 41 回日本看護科学学会 学術集会 2021.12.05
- 2. 駒形朋子, 佐々木吉子, 小笹由香. AI とのワークシェアを視野に入れた看護業務の実態調査研究~ COVID-19 の影響に注目して~. 第 41 回日本看護科学学会学術集会 2021.12.04 オンライン
- 3. 今津陽子. 令和3年度第1回地域がん医療連携研修会「がん治療に携わる医療者・がん患者の災害対策」. 令和3年度第1回地域がん医療連携研修会 2021.10.05 神奈川県横浜市
- 4. 佐々木吉子. 新型コロナウイルス感染症の電話相談業務に従事する看護職のストレスと対処. 日本災害看護 学会第23回年次大会2021.09.04 オンライン
- 5. 今津 陽子, 鐘ヶ江 紗里, 谷本 美保子, 古屋 裕美, 小曽根 京子, 鴨田 玲子, 藤村 麻衣子, 濱舘 陽子, 菅原 千 賀子, 佐々木 吉子. オンライン会議システムを利用した帰宅困難者対応訓練による訓練参加者への効果. 日 本災害看護学会誌 2021.09.01
- 6. 今津 陽子, 濱舘 陽子, 小曽根 京子, 鴨田 玲子, 藤村 麻衣子, 鐘ヶ江 紗里, 菅原 千賀子, 谷本 美保子, 古屋 裕美, 佐々木 吉子. 企業に所属する防災担当者を対象としたオンライン帰宅困難者対応訓練作成の取り組み. 日本災害看護学会誌 2021.09.01
- 7. 鐘ケ江紗里, 佐々木吉子, Rebecca Carlson, 今津陽子. シエラレオネ共和国における多義性コミュニティとコミュニティヘルスワーカーの活動と役割の実際. 第35回日本国際保健医療学会東日本地方会 2021.04.03
- 8. 渡邊知映、今津陽子、寺岡征太郎、長谷川久巳. 日本がん看護学会災害対策委員会主催セッション「With コロナにおけるがん看護の課題と取り組み」. 第 35 回日本がん看護学会学術集会 2021.02 Virtual

9. 村松真実、笠谷 美保、中信 利恵子、風間 郁子、菅原 よしえ、今津 陽子、山田 希、岸田 さな江、岩永 和 代、三浦 浅子、菅野 久美、天野 薫、加賀美 千津、佐藤 大介、村上 富由子. 避難所生活を送るがん患者に 必要な支援を考える ~伝えていますか? 治療継続中の患者が避難先でできるセルフケアと感染対策~. 第 35 回日本がん看護学会学術集会 2021.02 Virtual

### [Works]

- 1. 日本クリティカルケア看護学会 COVID-19 重症患者看護実践ガイドの作成(分担;佐々木吉子), その他, 2020 年 04 月 現在
- 2. 日本看護協会スキームによる COVID-19 対応応援派遣(北海道)(鴨田玲子), その他, 2020 年 12 月 2021 年 01 月

### [その他業績]

1. 避難所運営における感染対策(鐘ヶ江紗里), 2021 年 10 月 避難所開設を担う町会役員や市民団体を対象に、コロナ禍における避難所開設、運営について講座を実施。

### [社会貢献活動]

- 1. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援(佐々木吉子), 2005年10月-現在
- 2. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース(佐々木吉子), 日本看護協会, 2010年 現在
- 3. ラオス国保健医療ボランティア活動団体への支援(小曽根京子, 鐘ケ江紗里), Plumerian, 2020 年 02 月 現在
- 4. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援(今津陽子), 2020年04月-現在
- 5. 東京慈恵会医科大学医学部看護学科非常勤講師(災害看護学;佐々木吉子), 2020年 04月 01日 現在
- 6. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に配慮した避難所対策(佐々木吉子), 神奈川県看護協会, 2020 年度神奈川県看護協会災害支援ナースフォローアップ研修, オンデマンド, 2021 年 02 月 26 日
- 7. 令和2年度千代田区帰宅困難者対応訓練(帰宅困難者受入施設運営訓練・リモート形式)の企画運営(佐々木吉子、今津陽子、菅原千賀子、古屋裕美、谷本美保子、小曽根京子、鴨田玲子、藤村麻衣子、鐘ヶ江紗里), 主催:千代田区 訓練参加団体:千代田区内帰宅困難者対策地域協力会4団体,実施場所:オンライン,2021 年03月05日
- 8. 文京区防災活動(鐘ヶ江紗里), 2021年 04月 01日 現在
- 9. 東京駅周辺防災隣組第 88 回総会での講演(今津陽子):「令和 2 年度千代田区帰宅困難者対応訓練報告」、2021 年 05 月 24 日
- 10. 神奈川県看護協会災害救護対策委員会アドバイザー(佐々木吉子), 神奈川県看護協会, 2021 年 06 月 01 日 現在
- 11. 県営かもめ団地 2021 年度第1回防災協力員講習会 (小曽根京子), 神奈川県営団地 かもめ団地自治会, かもめ団地集会所, 2021 年 06 月 15 日
- 12. 東京 2020 オリンピック選手村診療所業務支援(鴨田玲子), 2021 年 07 月 2021 年 08 月
- 13. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山﨑智子、高野歩、佐々木美樹、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、津田紫緒、川本祐子、栗林一人、野口綾子、藤波景子、藤村麻衣子),2021年08月16日 2021年09月21日
- 14. 日本看護学教育学会第 31 回学術集会シンポジウム座長(佐々木吉子), 日本看護学教育学会, 2021 年 08 月 18 日
- 15. 災害看護〜災害医療における看護職の役割〜(佐々木吉子), 横浜市, 2021 年度横浜市災害支援ナース登録 推進研修 , オンライン, 2021 年 10 月 24 日
- 16. 災害に備える〜持病のある人も安心して災害後を過ごすために〜(佐々木吉子), 東京医科歯科大学, 2021 年度東京医科歯科大学公開講座, オンライン, 2021 年 11 月 17 日

Ⅲ.2021年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

# 2021年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士(看護学)52名

	学生氏名	論 文 題 目
1	永 井 伶 奈	認知症高齢者の無給介護者における介護肯定感とその要因との関連:文献レビュー
2	山 﨑 綾 香	看護管理者のマネジメント上の困難と学習ニーズに関する質的分析
3	浦下唯	認知症高齢者における世代間交流の効果:インタビュー調査の質的分析
4	加藤美詞	病院に勤務する看護職に対する職業性腰痛への介入と有効性に関する文献レビュー
5	大 成 佳 純	認知症による治療機会逸失の可能性のある疾患の探索的分析: DPC データを用いて
6	松村 いつみ	大腿骨近位部骨折患者におけるADL 回復過程の可視化と関連する施設要因の検討 ~DPC データを用いた探索的分析~
7	五十嵐 美咲	がん・生殖医療連携ネットワーク整備に関する都道府県格差とその推移
8	海 野 碧	看護師による慢性心不全患者への患者指導に関する文献検討
9	郷家奈夕	LGBTの人々が医療機関を受診する際に医療者・医療機関が行う配慮に関する文献レビュー
10	小 林 萌 音	COVID-19 感染拡大後の医療現場における聴覚障がい者の体験・思い
11	島田萌	急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニングに関する文献検討:過去 20 年の研究動向
12	福本 彩夏	新型コロナウイルス感染症のケアを担う看護師の抑うつ・不安:システマティックレビューのレビュー
13	安藤 真緒	ゲーム障害を有する若者における親子関係に関する文献レビュー
14	伊藤 玲奈	認知症患者以外を対象としたアニマルロボットセラピーの効果に関するスコーピングレビュー
15	熊 川 咲	日本におけるメンタルヘルスリテラシー教育に関する介入研究レビュー
16	川名詩音	慢性疾患を抱える小児に対する海外の遠隔医療におけるICT活用の現状と看護実践に関する文献検討
17	高 田 桃 花	食物アレルギーを持つ子どもを育てる養育者が抱える困難と不安
18	森口理紗	学童・思春期のがんを持つ子どもの意思決定に関する文献検討 〜親子の思いに注目して〜
19	山縣美怜	国内外の小児病棟における音楽を使用した看護実践に関する文献検討
20	髙橋奈子	新型コロナウイルス感染症のワクチン接種における意思決定の現状 -インフルエンザワクチンとの比較から-
21	工藤優華	看護学生のレジリエンスに関する文献検討
22	波 部 更 紗	包括的性教育と日本の学校性教育の現状 - ジェンダーの視点から考える-
23	星このみ	疾患・障害をもつ子どものきょうだいの体験の違いに関する文献検討
24	西村 沙穂	ペリネイタル・ロスを経験した家族へのケアに関する文献検討
25	太田彩香	新型コロナウイルス感染症流行下でのオンラインを用いたメンタルヘルス相談業務の実際
26	小林 こころ	看護師が捉えた、思春期I型糖尿病患者の自立への移行において患者会が果たす役割
27	服部彩音	精神障害者の親をもつ子どもへの保健師のかかわり
28	米澤 知優	保健師がとらえる発達障害児の家族の就学前後の困りごとと保健師による支援の実際

	氏 名	論 文 題 目					
29	山本 琴音	産後うつまたはそのハイリスクの母親とのかかわりにおいて保健師が感じる困難とその対処					
30	猿 渡 朱 莉	新型コロナウイルス流行下における高齢者に対する社会活動参加促進のための援助の検討					
31	藤掛詩音乃	新型コロナウイルスの流行が大学生の気晴らしやストレス反応に与える影響					
32	棚橋杏香	終末期がん患者と家族の希望から見えるスピリチュアルペインに対するケアの検討					
33	眞 壁 遥 花	終末期医療におけるデスカンファレンスの効果と課題の検討					
34	宇 久 田 萌	看護師の感情規則に関する文献検討					
35	廣谷紀実果	音楽の身体的・生理学的影響に関する文献検討					
36	橋 本 裕 美	訪問看護ステーション管理者の労務状況と就業継続意向の関連					
37	秋 谷 美 帆	訪問看護師の報告・連絡・相談の手段別実施状況とワーク・エンゲイジメントの関連					
38	那 須 由 理	職場環境及びケアの質と訪問看護師の就業継続意向及び離職の関連					
39	豊島鈴	65歳以上の一般住民における男女別抑うつ度の関連要因検討					
40	神田柚衣	都市部と過疎部の地域差に着目した、在宅高齢者における Visual Analogue Scale を用いた主観的幸福感の関連要因の検討					
41	岩 倉 果 南	スポーツ外傷を受けたアスリートに対する看護支援に関する文献検討					
42	三 谷 桜	ICUでの積極的治療から終末期医療への移行判断における看護支援に関する文献検討					
43	森本七海	整形外科手術後の高齢者のリハビリ意欲向上に向けた効果的な看護支援に関する文献検討					
44	武谷 なつみ	終末期患者の経口摂取における看護支援に関する文献検討					
45	吉 本 翔 子	人工呼吸器装着患者との意思疎通困難の改善に向けた看護実践に関する文献検討					
46	持 木 優 花	独居終末期患者の在宅療養を実現するための看護支援に関する文献検討					
47	坂本奈々美	急性期領域で人工呼吸器装着により発声できない入院患者とのコミュニケーション					
48	新保華月	急性期にある小児患者のきょうだい児の体験と看護支援の現状					
49	亀 本 夏 実	東日本大震災における被災地内の看護職と派遣された看護職の連携の実態と課題					
50	佐々木 和佳	日本における災害時に高齢者が体験した避難所生活の実態に関する文献検討					
51	吉 田 碧	離島、山間部、へき地における看護職による災害対策・対応への関わりの実態					
52	櫻井 あやの	災害時、避難所において他職種と協働する際に看護職に求められる役割と課題					

# Ⅳ. 2021 年度大学院保健衛生学研究科博士課程 課題研究題目一覧表

## 2021年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文一覧表

### ○修士(看護学) 10名

	氏 名	専 攻	指導教員	論 文 名	主 査	副査	副查
1	王 聡 聡	看護先進科学専攻	近藤 暁子	The trainings for foreign-educated nurses: A scoping review	田中 真琴	高野 歩	矢郷 哲志
2	小野寺 春香	看護先進科学専攻	月野木 ルミ	パートナーからのソシャル・サポートに 着目した妊娠期 からの産後うつの予防的介入に関する文献検討	佐々木 吉子	佐々木 美樹	森岡 典子
3	柴 野 裕 子	看護先進科学専攻	柏木 聖代	在宅療養患者の医療関連感染の発生と在宅サービスの関 連:スコーピングレビュー	福井 小紀子	森田 久美子	今津 陽子
4	戸田 あゆみ	看護先進科学専攻	大久保 功子	出産中に助産師から受けたケアの質を女性の視点から総合的に評価する尺度開発に向けた文献検討	月野木 ルミ	佐々木 美樹	野口 麻衣子
5	堀田 宗一郎	看護先進科学専攻	田中 真琴	Nighttime Detection and Response for Deteriorating Inpatients: A Scoping Review	近藤 暁子	森岡 典子	野口 麻衣子
6	問 潔 茹	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Interventions that can impact on the childbirth experience among women with a fear of childbirth: a systematic review	緒方 泰子	森田 久美子	矢郷 哲志
7	刘菲	看護先進科学専攻	山﨑 智子	がん患者遺族の困難、苦悩とニーズに関する研究	佐々木 吉子	岡光 基子	川上 明希
8	及川 江利奈	看護先進科学専攻	高野 歩	精神科における看護師から患者への暴力・虐待:スコービングレビュー	柏木 聖代	岡光 基子	三隅 順子
9	朝見(小形) 優子	看護先進科学専攻	岡光 基子	小児在宅療養における親とのパートナーシップに関する 訪問看護師の実践:質的研究の文献検討	福井 小紀子	森田 久美子	津田 紫緒
10	庄司 花円	看護先進科学専攻	森田 久美子	青年期の健康に関する自己決定の尺度の検討	月野木 ルミ	柏木 聖代	三隅 順子

### 課程博士

### ○博士(看護学) 5名

	氏 名	専 攻	指導教員	論 文 名	主 査	副 查	副查
1	西川 裕理	看護先進科学 (高齢社会看護システム管 理学分野)	緒方 泰子	Realization and personalization by facing fatality: A grounded theory of developing the view of dying in people with heart failure	佐々木 吉子	福井 小紀子	山﨑 智子
2	呂 暁 衛	看護先進科学 (地域健康増進看護学分 野)	森田 久美子	Effectiveness of health education programme of primary school-aged children in the urban area of China	緒方 泰子	近藤 暁子	月野木 ルミ
3	染 谷 彰	看護先進科学 (先端侵襲緩和ケア看護学 分野)	田中 真琴	The process by which patients become aware of unilateral spatial neglect: A qualitative study	柏木 聖代	佐々木 吉子	佐々木 美樹
4	山縣 千尋	看護先進科学 (高齢社会看護システム理 学分野)	緒方 泰子	Preliminary Effect and Acceptability of an Intervention to Improve End-of-Life Care in Long- Term-Care Facilities: A Feasibility Study	福井 小紀子	月野木 ルミ	山﨑 智子
5	髙田 聖果	看護先進科学 (高齢社会看護システム理 学分野)	緒方 泰子	Implementation of an advance care planning inventory and its possible effect on quality of dying: a nationwide cross-sectional study in group homes for persons with dementia in Japan	田中 真琴	柏木 聖代	野口 麻衣子

# V.委員会委員名簿

### 2021 年度 各種委員会等メンバー

〔大学院〕 〔学部〕

共同災害看護学専攻長:佐々木(吉) 生体検査科学系教授会議長:沢辺

☆青仟者 ○副青仟者 ( ) オブザーバー

[スキルス・ラボ検討委員会]  [横] ☆柿沼  [学部カリキュラム委員会]  [清] 担当者なし  [検] ☆柏木、大久保、月野木、田中、佐々木(吉)、福井、緒方、川上  [検] ☆角、沢辺、大川、齋藤  カリキュラム見直し委員会(ad hoc)  [検査 CBT/OSCE 導入準備委員会]  [検] ☆介藤、西尾、副島、亀田、太田、(角)  [実習・臨地実習担当委員会]  [検] ☆齋藤、○西尾、副島、亀田、太田、(角)  [東習・臨地実習担当委員会]  [検] ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田  [卒業論文委員会]  [本業研究委員会]  [本書] ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷  [本書研究委員会]  [本書] ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷	、保、月野木、今津、				
(検)   会伊藤、星、柿沼、鈴木、西尾、副島、藤代、亀田、(沢辺)   会角、伊藤、大川、斎藤、緒方、柏木、田中、佐々木(美) (大ケ 川上、野口(解)、沢辺)   (看)   ○近藤、月野木、福井、高野、津田   (検)   会沢辺、大川、齋藤、鈴木、西尾、(副島)   会大川、齋藤、鈴木、西尾、(副島)   会大川、齋藤、鈴木、西尾、(副島)   (本大川、齋藤、鈴木、色田、太田、馬淵   (事門看護師検討 WG)   (看)   2021 年度: なし   (科目担当) 佐々木(吉)、今津、野口(綾)   (検)   が沼、西尾 [「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、亀 [ (君) 担当者なし   (検)   会柿沼   (資部カリキュラム委員会)   (積)   会権木、大久保、月野木、田中、佐々木(吉)、福井、緒方、川」   (検)   会育、沢辺、大川、齋藤   カリキュラム委員会   (検)   会介、沢辺、大川、齋藤   大川、柿沼、角、西尾、副島、亀田、太田、(角)   会介、アジー・「大久保、自野木、田中、佐々木(美)、野口(原川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤皮   *カリキュラムWG   (検)   会齋藤、〇西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田   (卒業論文委員会)   (検)   会齋藤、〇西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田   (卒業論文委員会)   (検)   会鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵   会鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵	、保、月野木、今津、				
「国際教育・研究センター]	、保、月野木、今津、				
「国際教育・研究センター   「看】 ○近藤、月野木、福井、高野、津田   「検】 ☆沢辺、大川、齋藤、鈴木、西尾、(副島)   「海外学生交流受入・遠隔交流 WG   「積】 ☆ 大川、齋藤、鈴木、 西尾、 (副島)   (本外学生交流受入・遠隔交流 WG   「看】* 2021 年度: なし   「看】* 2021 年度: なし   「香料・ 2021 年度: なし   「香料・ 2021 年度: なし   「香料・ 2021 年度: なし   「香料・ 2021 年度: なし   「「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、 何   「「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、 何   「「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、 何   「「「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、 何   「「「「・ 1」」、「「「・ 1」」 「「 1」 「「・ 1」」 「「 1」 「「 1」 「 2 本 市沼 「 2 本 市沼 「 2 本 市 下、 「 2 本 下 下、 「 2 下 下、 「 2 本 下 下、 「 2 下 下、 下					
[国際教育・研究センター]					
[国際教育・研究センター]					
<ul> <li>(海外学生交流受入・遠隔交流 WG)</li> <li>「専門看護師検討 WG)</li> <li>「看】* 2021 年度: なし</li> <li>「番】* 2021 年度: なし</li> <li>「番】 (科目担当) 佐々木(吉)、今津、野口(綾)</li> <li>「検】 柿沼、西尾 「「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、賃</li> <li>「香】 担当者なし</li> <li>「検】 ☆柿沼</li> <li>「管部カリキュラム委員会」</li> <li>「有】 (大) (株) (大) (株) (大) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本</li></ul>					
<ul> <li>[青門看護師検討 WG]</li> <li>[活]* 2021 年度:なし</li> <li>[医歯学融合教育委員会]</li> <li>[後] 株沼、西尾 [「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、賃</li> <li>[大年ルス・ラボ検討委員会]</li> <li>[清]* ☆柏木、大久保、月野木、田中、佐々木(吉)、福井、緒方、川上</li> <li>[(支部カリキュラム委員会]</li> <li>[大倉] 大川、南沼</li> <li>[大倉] 大川、南彦</li> <li>(本) 大川、京藤</li> <li>(本) 大川、村沼、角、西尾、副島</li> <li>[株査 CBT/OSCE 導入準備委員会]</li> <li>[大倉] 大川、〇戸隅、〇矢郷、山崎、高野、今津、佐々木(美)、野口(病)川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤皮*カリキュラムWG</li> <li>[大倉] ☆森田、佐々木(美)、野口(病)、廣山、矢郷</li> <li>[本] ☆森田、佐々木(美)、野口(病)、廣山、矢郷</li> <li>[本] ☆森田、佐々木(美)、野口(病)、廣山、矢郷</li> <li>[本] ☆森田、佐々木(美)、野口(病)、廣山、矢郷</li> <li>[本] ☆森田、佐々木(美)、野口(病)、廣山、矢郷</li> <li>[本] ☆森田、佐々木(美)、野口(病)、廣山、矢郷</li> </ul>					
<ul> <li>【看】 (科目担当) 佐々木(吉)、今津、野口(綾)</li> <li>【検】 柿沼、西尾 〔「チーム医療入門」シナリオ作成TF 藤代、賃</li> <li>【看】 担当者なし</li> <li>【検】 ☆柿沼</li> <li>[(幸) ☆柿沼</li> <li>【清】 担当者なし</li> <li>【検】 ☆柏木、大久保、月野木、田中、佐々木(吉)、福井、緒方、川上</li> <li>【検】 ☆角、沢辺、大川、齋藤</li> <li>カリキュラム見直し委員会 (ad hoc)</li> <li>【検】 ☆斎藤、大川、柿沼、角、西尾、副島</li> <li>【検】 ☆大川、〇齋藤、西尾、副島、亀田、太田、(角)</li> <li>【香】 ☆川上、〇三隅、〇矢郷、山﨑、高野、今津、佐々木(美)、野口(病) 川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波*カリキュラムWG</li> <li>【検】 ☆齋藤、〇西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田〔卒業論文委員会〕</li> <li>【香】 ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷</li> <li>【存業研究委員会〕</li> <li>【検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵</li> </ul>					
「検】 柿沼、西尾 「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、亀					
[ (	柿沼、西尾 〔「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、亀田、太田〕				
[学部カリキュラム委員会]  [清]* ☆柏木、大久保、月野木、田中、佐々木(吉)、福井、緒方、川上   ☆角、沢辺、大川、齋藤   カリキュラム見直し委員会 (ad hoc)   [検】 ☆齋藤、大川、柿沼、角、西尾、副島   (検】 ☆大川、○齋藤、西尾、副島、亀田、太田、(角)   (季置・臨地実習担当委員会)   [香]   ☆川上、○三隅、○矢郷、山﨑、高野、今津、佐々木(美)、野口(病川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波*カリキュラムWG   (検】 ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田   「卒業論文委員会]   [香]   ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷   [本業研究委員会]   [検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
【検】 ☆角、沢辺、大川、齋藤         カリキュラム見直し委員会 (ad hoc)       【検】 ☆齋藤、大川、柿沼、角、西尾、副島         【検査 CBT/OSCE 導入準備委員会]       【検】 ☆大川、○齋藤、西尾、副島、亀田、太田、(角)         【香】 ☆川上、○三隅、○矢郷、山崎、高野、今津、佐々木(美)、野口(麻川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波*カリキュラムWG         【検】 ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田         【卒業論文委員会]       【看】 ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷         【本業研究委員会]       【検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
カリキュラム見直し委員会 (ad hoc) [検査 CBT/OSCE 導入準備委員会] 【検】 ☆ 京藤、大川、柿沼、角、西尾、副島 (権】 ☆ 大川、〇齋藤、西尾、副島、亀田、太田、(角) 【看】 ☆川上、○三隅、○矢郷、山﨑、高野、今津、佐々木(美)、野口(病 川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波 *カリキュラムWG 【検】 ☆ 齋藤、〇西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田 〔卒業論文委員会〕 【看】 ☆ 森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷 〔卒業研究委員会〕 【検】 ☆ 鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
[検査 CBT/OSCE 導入準備委員会]  【検】 ☆大川、○齋藤、西尾、副島、亀田、太田、(角)  【看】 ☆川上、○三隅、○矢郷、山﨑、高野、今津、佐々木(美)、野口(麻) 川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波 *カリキュラムWG 【検】 ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田 〔卒業論文委員会〕 【看】 ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷 〔卒業研究委員会〕 【検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
[看] ☆川上、○三隅、○矢郷、山崎、高野、今津、佐々木(美)、野口(麻川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波*カリキュラムWG 「検】 ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田「卒業論文委員会」 「看】 ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷「卒業研究委員会」 「検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
[実習・臨地実習担当委員会]       川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、藤波 *カリキュラムWG         [検】 ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田         [卒業論文委員会]       【看】 ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷         [卒業研究委員会]       【検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
*カリキュラムWG   *カリキュラムWG     ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田   [卒業論文委員会]   【看】 ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷   [卒業研究委員会]   【検】 ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵	7、槑町、大門原、				
【検】       ☆齋藤、○西尾、沢辺、柿沼、大川、副島、赤座、亀田、太田         [卒業論文委員会]       【看】       ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷         [卒業研究委員会]       【検】       ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
[卒業論文委員会]       【看】       ☆森田、佐々木(美)、野口(麻)、廣山、矢郷         [卒業研究委員会]       【検】       ☆鈴木、星、本間、藤代、亀田、馬淵					
[卒業研究委員会]					
1 1					
【去】   3 · 1 在广学在组件。					
	3・4年生学年担任				
【検】 ☆齋藤、○大川、鈴木、西尾、副島、本間、藤代、亀田、太田					
	☆高野、森岡				
【検】 ☆大川、○齋藤、角、西尾、副島、本間、亀田、藤代、太田					
[図書・広報委員] 【看】 ☆月野木、湯本					
	<b>倹</b> 】				
・1年生(31回生)     岡光、森岡       柿沼					
・2年生(30回生)       福井、津田       西尾					
・3年生(29回生) 柏木、廣山(進路指導担当) 鈴木					
・4年生(28回生)       森田、矢郷 (進路指導担当)       齋藤					
	藤代、亀田、太田				
[親睦会・会計] ☆近藤、三隅、川本 ☆伊藤、赤座、亀E					
[保健衛生学科 FD 委員会] ☆田中、山崎、前田 ☆柿沼、西尾、馬紅	H				
〔教育技法 FD 委員会〕					
(LAN・ホームページ担当WG)☆三隅、川上					
[LAN・ホームページ・広報担当委員会] ☆西尾、沢辺、角、	本間、亀田、藤代				
[自己点検・評価委員会] 【看】 ☆緒方、森田、大河原、栗林	☆緒方、森田、大河原、栗林				
【検】 ☆伊藤、○星、角、本間、藤代、赤座、亀田、(沢辺)	☆伊藤、○星、角、本間、藤代、赤座、亀田、(沢辺)				
〔競争的資金獲得検討委員会〕 【看】 ☆大久保、月野木、福井、佐々木(吉)、近藤、田中、柏木、森田	☆大久保、月野木、福井、佐々木(吉)、近藤、田中、柏木、森田、緒方				
〔生体検査科学セミナー・リサーチカン 【検】 ☆鈴木、○伊藤、藤代、亀田、太田、馬淵					
ファ委員会〕					
【看】 ☆今津、川本、野口(麻)、大河原、湯本、栗林 (オープンキャンパン					
[オープンキャンパス・受験生対策 WG] 【検】 ☆西尾、○角、沢辺、副島、本間、赤座、藤代、亀田(オープンキ	ス当日は全分野の助教)				
教					
〔医歯学附属病院研究支援〕     【看】  ☆福井、岡光、野口(綾)					

<sup>\*</sup>定期的に情報共有。例:①各委員長・大学院教育委員長・学部教育委員長・研究科長 →②全教授 (→③全教員)

VI. 就職状況一覧表 (2022年3月卒業・修了者)

2022.5.1現在

# (看護先進看護学・共同災害看護学)

				学部		大学院		
	区分		(看護学)		博士課程			
			小計	合計	小計	合計		
進学	本学		0	2	0	0		
<b>進于</b>	本	学以外	2	۷	0	O		
	<del>手</del> 難師	本学	37	-	0			
	看護師	本学以外	10		0			
	保健師		3	50	0	5		
就職	助産師		0		0			
水山中以	助教(大学機関)		0		5			
	助手(大学機関)		0		0			
	講師(	大学機関)	0		0			
	ز	その他	0		0			
その他(不明)				0		0		
	合計			52		5		

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科年報

2021年度

保健衛生学研究科教育委員

佐々木 吉 子 委員長

大久保 功 子

福 井 小紀子

森 田 久美子

岡 光 基 子

発 行 2022年11月

編集·発行 東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html